

UDC 621.452.322.034

航空宇宙技術研究所資料

TECHNICAL MEMORANDUM OF NATIONAL AEROSPACE LABORATORY

TM-299

高圧燃焼器の研究(V)

—呼称#07ライナの実験結果—

鈴木邦男・石井浅五郎

1976年4月

航空宇宙技術研究所
NATIONAL AEROSPACE LABORATORY

項 目	担 当 者
実 驗 計 測	佐々木宣卿 ^{**} , 酒井規行 ^{**}
計 測 装 置	西尾健二 [*] , 越沼 威 [*]
実 驗 装 置 運 転 (空 気 源)	小倉五郎 [*] , 平田 宏 [*] 下平一雄 [*]

* 原動機部

** 川崎重工業(株)

高圧燃焼器の研究(V)*

—呼称#07ライナの実験結果—

鈴木邦男**・石井浅五郎**

概要

昭和46年度から進めている工業技術院の大型工業技術研究開発「航空機用ジェットエンジンの研究開発」の一環として、FJRエンジン燃焼器の開発のための資料を得ることを目的に、アニュラ形燃焼器模型を製作し、大気圧から2.7気圧までの燃焼実験を行なった。

この燃焼器模型(呼称#07)は、それまでの箱形燃焼器模型の実験結果をもとに設計したものである。分流板3種類、スワーラ3種類、ライナ希釈孔形状7種類について燃焼器性能を調べた。その結果、主流方向のライナ空気孔3個形(従来は4個形)に関する各種の資料を得たが、これは排気制御を考え、ライナ空気孔配置の変更を行なう際に有用なものである。

1. はしがき

通商産業省工業技術院では、昭和46年度から大型工業技術研究開発「航空機用ジェットエンジンの研究開発」をとりあげ、これを進めているが、このプロジェクトの一環として、FJRエンジン燃焼器の設計資料を得るために、アニュラ形燃焼器模型を製作し、燃焼実験を行なった。

この燃焼器模型(呼称#07)は、それまでの箱形燃焼器模型の大気圧実験結果を取り入れて設計したもので、各部を交換可能な構造とし、分流板3種類、スワーラ3種類およびライナ希釈孔形状7種類を組合せ、大気圧から約2.7気圧までの条件の実験をした。

この結果、アニュラ形燃焼器にはじめて採用した鈍頭形分流板は、良好な性能を示し、また、呼称52のスワーラも箱形燃焼器模型に用いた場合よりも良好な性能を示すことが判明した。

ライナ本体については、設計時に考慮した出口温度半径方向分布改善の効果が現れず、この修正のため、希釈孔形状を種々変更して実験した。これから出口温度分布

について、平均値として所要の分布形にすることができた。しかし、細部にわたる調整は残っている。希釈孔調整の際、希釈孔開口面積がかわり、全ライナ開口面積が変化したが、これにより、分流板やスワーラの最適な組合せのかわることが判明し、各部の最適な開口面積配分に関する資料が得られた。

最終的なライナ空気孔形状、およびそれに適する分流板、スワーラの組合せは得られていないが、初期に計画した実験を終了したので、以下に報告する。

2. 記号

A_c ; ライナ冷却空気孔面積 (cm^2)

A_h ; ライナ空気孔面積 (cm^2)

添字 i 内径側

o 外径側

L_b ; 燃焼負荷率 ($\text{kcal}/\text{m}^3 \text{ h atm}$)

n ; 空燃比 (w_a/w_f)

P_1 ; 入口空気全圧 ($\text{kg}/\text{cm}^2 \text{ abs}$)

P_2 ; 出口平均全圧 ($\text{kg}/\text{cm}^2 \text{ abs}$)

ΔP ; 全圧損失 ($= P_1 - P_2$; $\text{kg}/\text{cm}^2 \text{ abs}$)

P_f ; 燃料噴射圧力 ($\text{kg}/\text{cm}^2 G$)

添字 M セコンダリノズル

P プライマリノズル

T_1 (K) ; 入口空気温度 (K , ($^\circ\text{C}$))

T_2 (K) ; 出口燃焼ガス平均温度 (K , ($^\circ\text{C}$))

ΔT ; 平均温度上昇 ($= T_2 - T_1$; deg K)

$T_{2,i}$; 出口局所温度 (K)

T_2/T_1 ; 出口入口温度比 (K/K)

U_r ; 最大断面平均風速 (m/s)

w_a ; 空気流量 (kg/s)

w_f ; 燃料流量 (kg/s)

δ_t ; 出口温度不均一率 ($= \frac{(T_{2,i})_{\max} - T_2}{\Delta T}$)

η_b ; 燃焼効率 (%)

σ ; 出口温度標準偏差 (deg K)

* 昭和51年4月1日 受付

** 原動機部

$$\phi = \frac{4 P \times 10^4}{\frac{1}{2} \rho_1 U_r^2}$$

ρ_1 ; 入口状態の空気密度 ($\text{kg S}^2/\text{m}^4$)

3. 実験装置

この燃焼実験を行なった試験装置は、当所原動機部の円環形（アニュラ形）燃焼器試験装置である。この試験装置では、次の条件にて実験することができる。

供試燃焼器入口空気圧力 : P_1 = ほぼ大気圧 ~ 2.7 kg/cm² abs

供試燃焼器入口空気温度 : T_1 = 325 ~ 425 K (≈ 積機出口温度)

空気流量 : w_a = 1.5 ~ 25 kg/s

燃料噴射圧力 : P_f = 0 ~ 100 kg/cm² G

燃料流量 : w_f = 0.018 ~ 1 kg/s

使用燃料 : ジェット燃料 (Jet A-1 または JP-4)

実験データの処理は、HONEYWELL 316 のミニコンピュータを用い、オンラインシステムで行なった。実験 1 点あたりの計測時間は、条件設定時間、データ出し時間を含めて約 3 分である。

4. #07 燃焼器模型

呼称 #07 は、ライナ本体として箱形燃焼器模型で良好な燃焼性能を示した主流方向のライナ空気孔数 3 個のものを対象にし、この形の出口温度分布修正実験結果をもとに設計したものである。このライナの性能と同時に分流板形状の影響、ライナ隔壁板位置の影響；すなわち燃料噴射弁とスワーラとの軸方向相対位置の影響、試

作スワーラの性能などを調べることを目的に、それぞれいくつかの種類を製作した。

4.1 ライナ原型

ライナ原型のライナ空気孔配置は、箱形燃焼器模型の呼称 CC 20 S-2 の実験結果¹⁾をもとにして決定した。CC 20 S-2 のライナ空気孔主流方向に 3 個の形は、これまで実験した同 4 個形 (CC 20 S-1²⁾, CC 10³⁾, CC 20⁴⁾ にくらべて燃焼効率特性がすぐれているが、これは、エンジンアイドル運転時の炭化水素 (HC) や一酸化炭素 (CO) の排出低減化に有利である。ただし、CC 20 S-2 の実験結果では、出口温度半径方向分布として、ターピン動翼の翼根側やや高めの傾向があり、この分布形改善をはかるため、希釈空気孔形状の修正を行なった。この予備実験の内容および結果については、付録 1 に示す。

4.1.1 外側ライナ

外側ライナの空気孔配置を図 1 に示す。ライナ空気孔開口面積は $A_{ho} = 166.0 \text{ cm}^2$ となる。

ライナ壁の冷却は、冷却空気量を従来形とほぼ同一にし、主流方向のライナ空気孔数が従来形の 4 個から 3 個に少なくなったことからライナ冷却スリットの数が減り、冷却スリット間隔の長くなかったことを考え合せ、冷却スリット高さをこれまでの 3.0 mm から 3.5 mm と増加させた。また、冷却空気小孔を 2.7 mm ϕ から 3.0 mm ϕ に大きくした。これから、冷却空気小孔面積は、外側ライナ全体で $A_{co} = 127.6 \text{ cm}^2$ になった。冷却性能の計算によると、これで従来形のそれとほぼ同等になる。

ライナ輪郭は、ディフューザ出口部分における外側ライナーケーシング間流路断面積 / 内側ライナーケーシング間流路断面積比を約 0.9 とすること、および従来形の

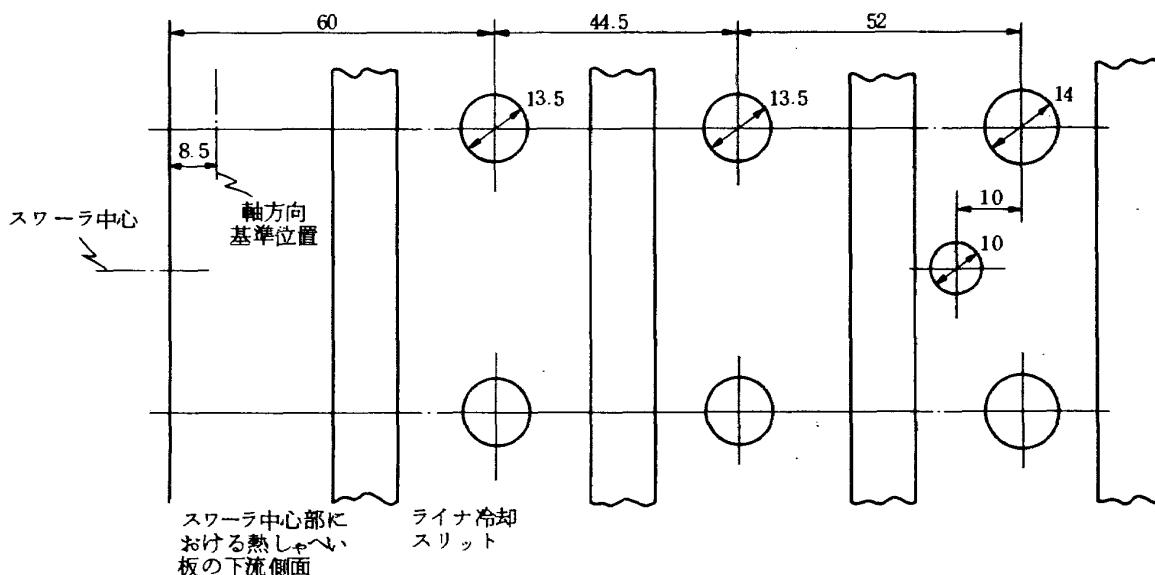


図 1 #07 外側ライナ空気孔配置

呼称 CC 20-2⁵⁾ のライナ輪郭から外側に張出す箇所のないようにした。

4.1.2 内側ライナ

内側ライナの空気孔配置を図 2 に示す。これで、ライナ空気孔開口面積は $A_{hi} = 174.1 \text{ cm}^2$ となる。外側ライナ空気孔開口面積との比は、 $A_{ho}/A_{hi} = 166.0/174.1 = 0.953$ と内側ライナ空気孔開口面積のほうが多い。

内側ライナ壁冷却スリットは、外側ライナのそれと同一にした。冷却空気小孔面積は、内側ライナ全体で $A_{ci} = 92.9 \text{ cm}^2$ となった。

4.2 分流板

分流板として、次の 3 種類のものを製作した。

(1) 分流板-I (標準形) ; これは従来の形で、スワーラ空気流入部の開口部幅を $5.0 \pm 0.5 \text{ mm}$ とした。

図 3 にこれを示す。

(2) 分流板-II (短縮形) ; 分流板-I の長さを短縮したものである。分流板-I の場合、分流板入口部分における外側-内側 ケーシングの間隔が狭く、分流板によって流路が絞られる形になるため圧力損失があり、また、高い製作精度が要求される。

分流板-II はこの緩和をはかったものである。短縮長さについては、従来形の形状を検討し、18.5 mm とした(図 4)。

(3) 分流板-III (鈍頭形) ; これは、短縮の度合いをさらに強めたもので、分流板形状を大幅にかえ、鈍頭形としたものである。箱形燃焼器模型による実験の結果¹⁾ 良好なディフューザ壁圧分布を示し、従来形のそれと遜色のないことが示された。この鈍頭形分流板は、重量軽減や生産性の面からも望ましいものである。図 5 にこれを示す。

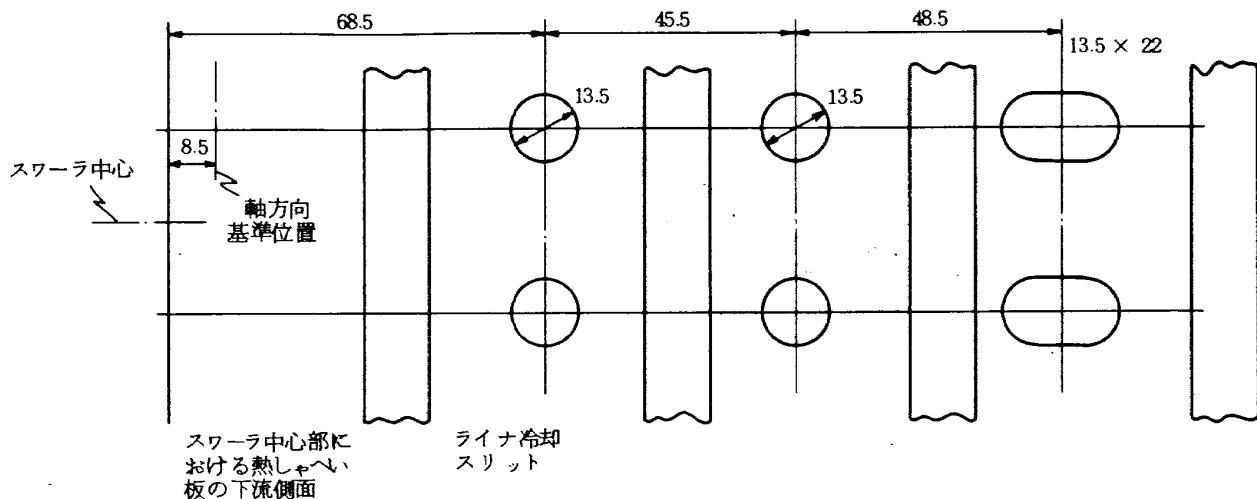


図 2 #07 内側ライナ空気孔配置

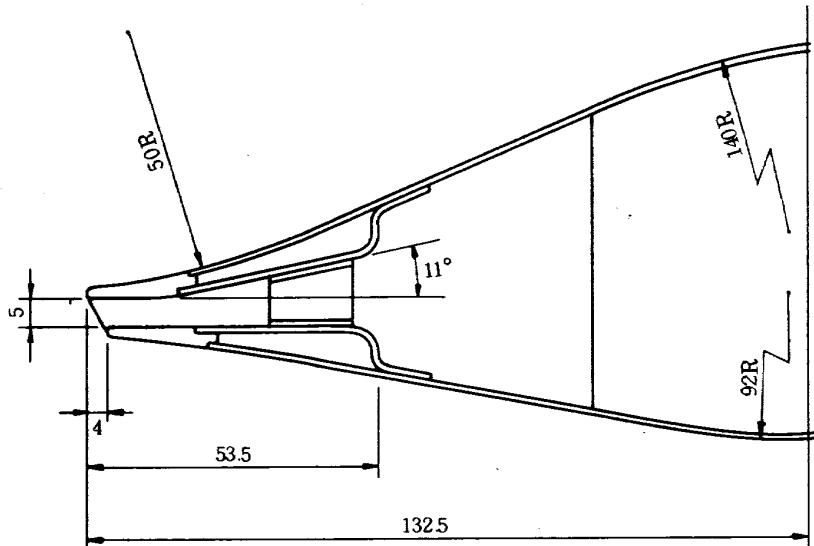


図 3 分流板-I (標準形)

4.3 隔壁板

隔壁板は、外側ライナ、内側ライナ、分流板を支持する強度部材であると同時に、スワーラを取付けて、燃焼器上流端面を構成するものである。

箱形燃焼器模型の実験から、スワーラと燃料噴射弁噴孔との軸方向相対位置は、燃料噴霧の広がりから火炎形状に影響を与えることが知られており¹⁾、これを試験するため、隔壁板軸方向位置を従来と同一、すなわち、スワーラ内径面と噴射弁噴孔の位置を同一に揃えたものと 5 mm ほど上流側に移したもの、すなわち噴射弁を 5 mm ほど下流側に出したものの 2 種類を製作した。前者を隔壁板-I、後者を隔壁板-II と呼ぶ。隔壁板-I の断面図を図 6 に示す。同図中の 13.5 mm の寸法が、隔壁板-II の場合 18.5 mm になっているほかは同一である。本

実験では、隔壁板-II のみを用いた。

隔壁板には、熱しゃへい板の冷却のため、1.6 mm キリ孔をピッチ 5.5 mm であけている。実験的に、これで冷却不足と判断されたところには、1.6 φ の代りに 2.0 ~ 2.5 φ と大きな冷却孔を開けた。この冷却孔開口面積は全体で 21.0 cm² ある。熱しゃへい板に衝突、冷却した空気は、熱しゃへい板と隔壁板間を外側ライナ、内側ライナ側に流れ、ライナにあけた 3.5 mm キリ孔(ピッチ 7 mm)からライナの外側(燃焼領域の外側)に流出する。これは、HC 排出低減化のため採用した方法である¹⁾。

4.4 スワーラ

スワーラとしては、有効外径 54 mm、旋回羽根板厚 t = 1.0 mm、旋回羽根植込角度 45°、42.5 mm φ 盲リング付を標準とし、有効外径の影響を調べるため、有効外径

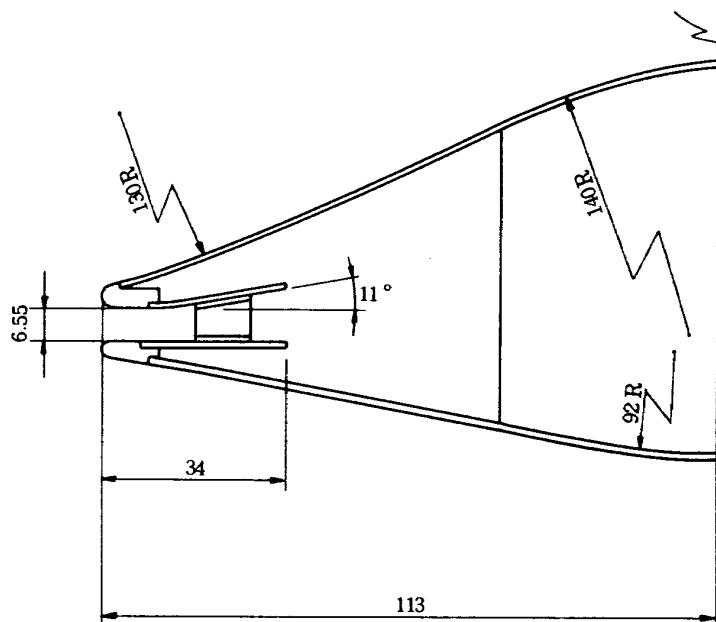


図 4 分流板 - II (短縮形)

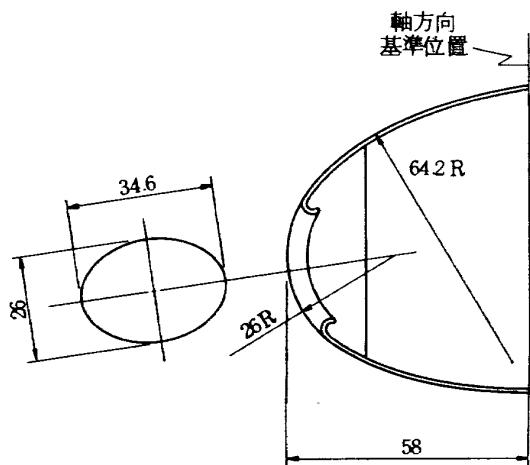


図 5 分流板 - III (鈍頭分流板)

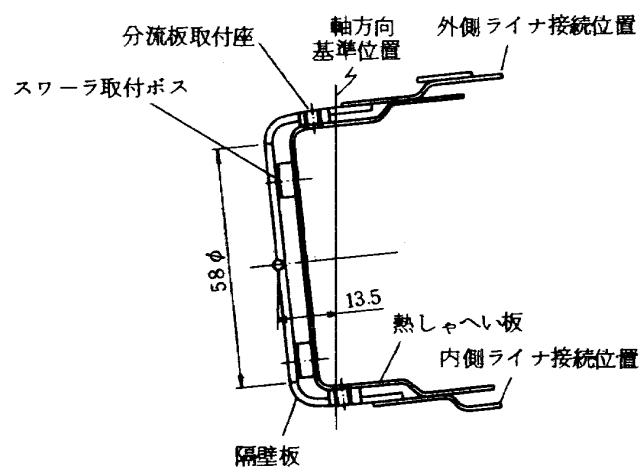


図 6 隔壁板 - I (標準形)

52 mm^2 ，および 46 mm^2 ⁶⁾のものを用いた。各スワーラの概要を図7に示す。これらは，いずれも箱形燃焼器模型で実験済みのものである。

4.5 ライナ開口面積

#07ライナ全体についての開口面積およびその比率を表1に示す。ライナ空気孔面積は外側，内側合せて $A_h = 340.1 \text{ cm}^2$ でこれまでのライナと同一である。ライナ壁冷却スリットの開口面積比は外側，内側合せて32.7%とやや多め(これまでのものは約30%)になっている。

スワーラは交換可能であり，開口面積比を適当にかえる

表1 #07ライナ開口面積配分

開 口 部	開 口 面 積 (cm ²)	開 口 比 (%)
スワーラ(16個分)	113.0	16.8
外側ライナ空気孔	166.0	24.6
内側ライナ空気孔	174.1	25.8
外側ライナ冷却スリット	127.6	18.9
内側ライナ冷却スリット	92.9	13.8
合 計	673.6	99.9

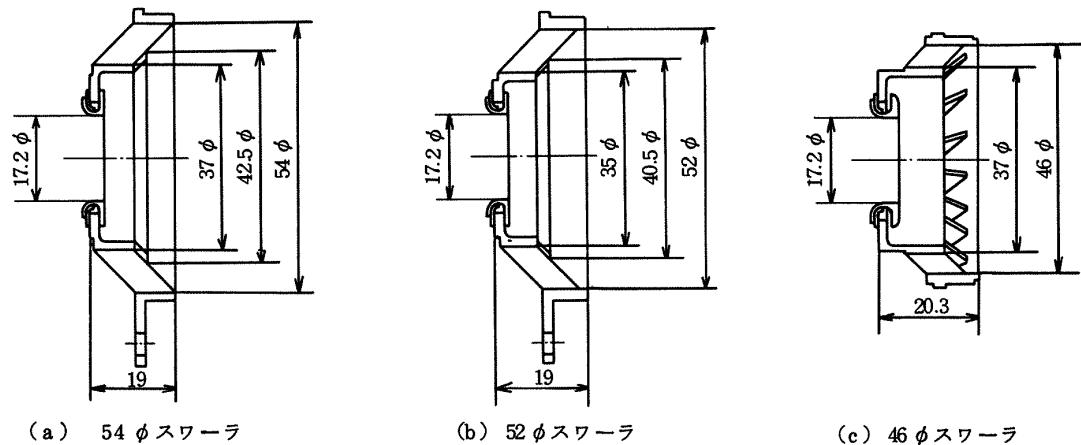


図7 スワーラ概要

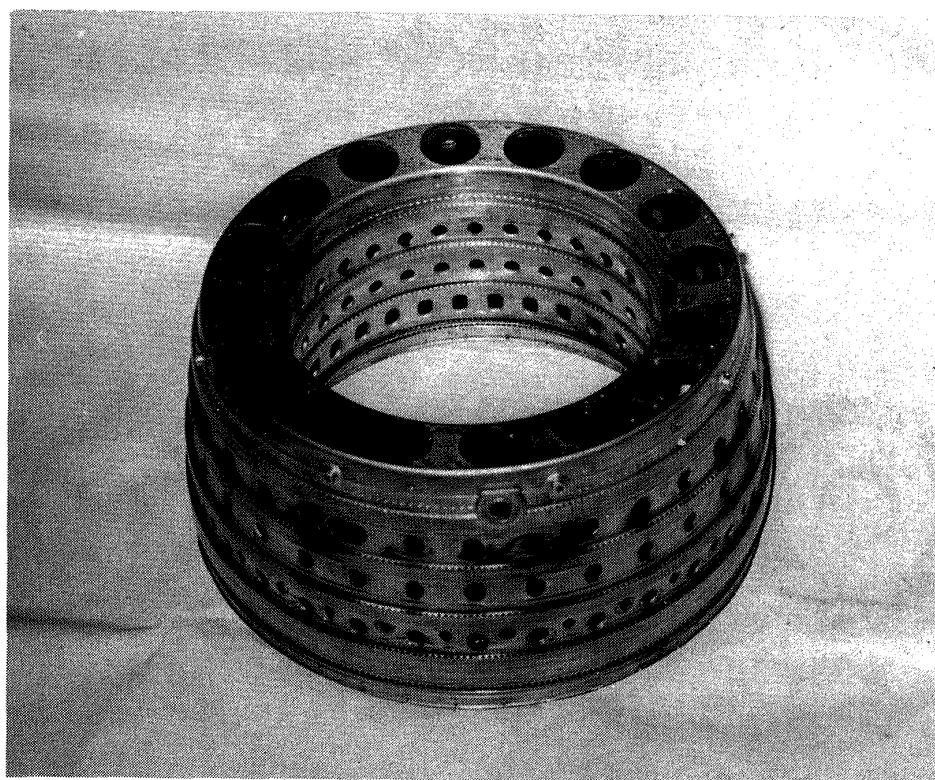


図8 #07ライナ本体(#07-10)

ことができる。表 1 では、 52ϕ スワーラのものを用いている。なお、スワーラ 1 個あたりの有効開口面積としては、 54ϕ スワーラが 7.37 cm^2 、 52ϕ スワーラが 7.06 cm^2 、 46ϕ スワーラは 4.15 cm^2 を見積った。

4.6 模型外観

07 ライナ本体を写真で図 8 に、3 種の分流板を図 9 に、3 種のスワーラを図 10 に示す。

5. 実験内容

5.1 実験条件

次の条件で燃焼実験を行なった。

燃焼器入口空気全圧： $P_1 =$ ほぼ大気圧～ $2.7 \text{ kg}/\text{cm}^2$

$\text{cm}^2 \text{ abs}$

燃焼器入口空気温度： $T_1 = 310 \sim 390 \text{ K}$

最大断面平均風速： $U_r = 7 \sim 20 \text{ m/s}$

空燃比： $n = 45 \sim 160$

使用燃料：*Jet A-1*

なお、一部通風試験を行なっているが、これは大気圧条件のみで、最大断面平均風速を $U_r = 6 \sim 23 \text{ m/s}$ とかえた。

5.2 燃焼器模型条件

実験したライナ供試体を表 2 に、分流板、スワーラ、ライナの組合せを表 3 に示す。# 07-0 ライナの実験は相当形を他で行なったため⁷⁾省略した。燃焼器ケーシン

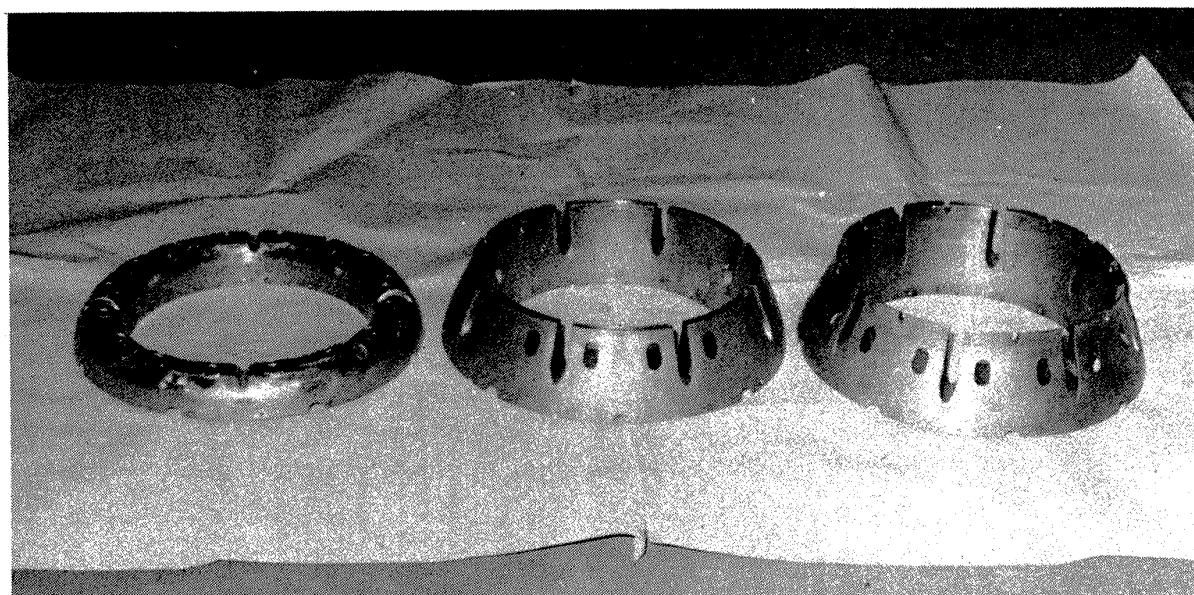


図 9 分流板（左から鈍頭形、短縮形、標準形）

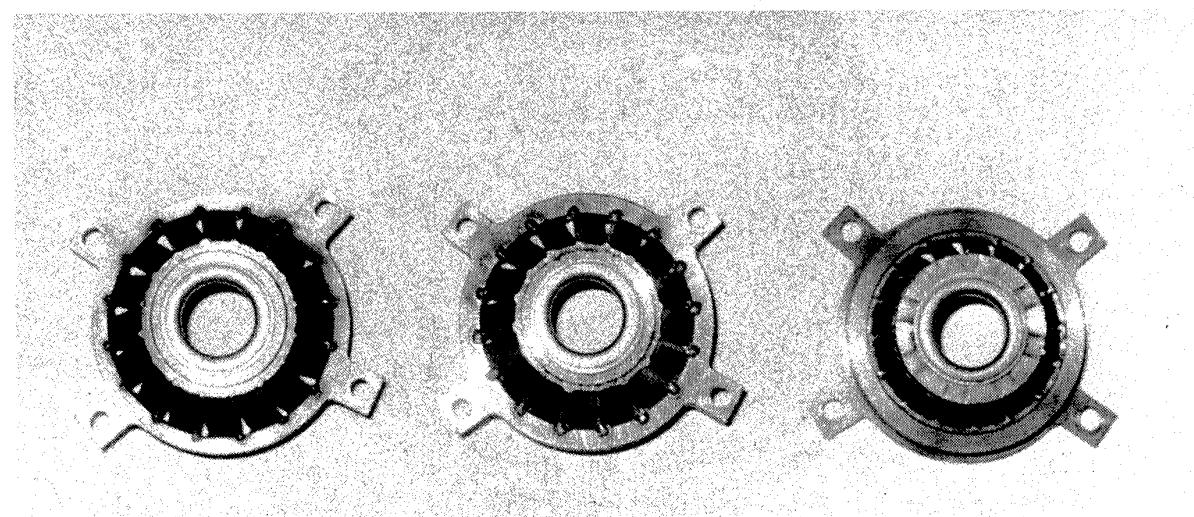


図 10 スワーラ（左から 54ϕ , 52ϕ , 46ϕ ）

表2 #07 ライナ希釈孔の変更

型 名	希釈空気孔形状		原型に対する空気孔減少面積 cm ²
#07-0	外側希釈孔	原型	0
	内側希釈孔	原型	0
#07-1	外側希釈孔	10φ 孔盲	25.1
	内側希釈孔	原型	0
#07-2	外側希釈孔	10φ, 14φ 孔とも盲	74.5
	内側希釈孔	原型	0
#07-3	外側希釈孔	10φ 孔盲	25.1
	内側希釈孔	13.5×22孔から 13.5φ に変更	36.7 > 61.8
#07-4	外側希釈孔	10φ 孔盲	25.1
	内側希釈孔	13.5×22孔を全部盲	83.0 > 108.1
#07-10	外側希釈孔	原型	0
	内側希釈孔	13.5×22孔を 1/2 ピッチ円周方向にまわす	0
#07-11	外側希釈孔	10φ 孔盲	25.1
	内側希釈孔	13.5×22孔を 1/2 ピッチ円周方向にまわす	0
#07-12	外側希釈孔	10φ, 14φ 孔を 1つおきに盲	37.2
	内側希釈孔	13.5×22孔を 1/2 ピッチ円周方向にまわす	0

グは、前報⁵⁾と同一のもの(FJR710/10 ケーシングとほぼ同一)、燃料噴射弁には、呼称CC20-2(FJR710/10のそれと同一規格)を用いた。

6. 実験結果

6.1 燃焼効率特性

燃焼器の性能には、各構成要素の特性が重り合って現われるため、要素単独のもの、たとえばスワーラのみ、の特性を取出して調べることがむずかしい。しかし、各要素の特性に関する資料が必要なので、ここでは、そのような形で検討し、他の構成要素の影響についても考慮することとした。

6.1.1 分流板の燃焼効率特性に及ぼす影響

分流板をかえることによる直接の影響として、次の事柄が考えられる。

- (1) スワーラから流入する空気量の変化。
 - (2) 分流板内の流速分布や流れ模様の変化、これは、スワーラを通る空気流のスワーラ円周方向の均一性に關係する。
 - (3) ディフューザ出口静圧の変化にともなうライナ空気孔からの空気流入配分の変化。
- このうち、燃焼効率特性への影響として、スワーラか

表3 燃焼器の組合せ

分流板	スワーラ	隔壁板	ライナ (希釈孔)
標準形	54φ		#07-1
鈍頭形	54φ		#07-1
鈍頭形	54φ		#07-2
鈍頭形	54φ		#07-3
標準形	54φ		#07-4
短縮形	54φ		#07-4
鈍頭形	54φ	II型	#07-4
鈍頭形	52φ	燃料噴射 弁が 5mm 突出する形	#07-4
鈍頭形	54φ		#07-10
鈍頭形	46φ		#07-11
鈍頭形 (開口部絞り)	46φ		#07-11
鈍頭形	54φ		-
			#07-12

ら流入する空気量の変化が、もっとも大きいと推定される。

図 11 にライナ#07-4、スワーラ 54φ のときの 3 種

類の分流板の燃焼効率特性の比較を示す。同図によると、空燃比 $n > 70$ の範囲では傾向が明らかで、燃焼効率は分流板鈍頭形 > 標準形 > 短縮形の順になっている。これに對し、 $n < 70$ の範囲では、標準形がもっとも良い。

図 12 は、分流板標準形と鈍頭形の比較をライナ #07-1 で行なったものであるが、この傾向は図 11 と全く逆になっている。これは、ライナ #07-1 は #07-4 より希釈孔開口面積が広く、この影響によるものと考えられる。図 11 と図 12 を合せてみると、希釈孔開口面積の変化による燃焼効率特性の変化が、標準形分流板の場合、鈍頭形のそれより大きく現われるためであって、実用的には鈍頭形のほうが良いといえる。分流板短縮形は図 11 による限り、他の 2 種の分流板より劣っているが、これは、多分に、スワーラとのマッチングがとれていないためであって、分流板自体の特性によるものではないと考えられる。

図 13 は鈍頭形分流板について、スワーラへ流れる空気量をかえた場合で、これでは、分流板入口開口面積の広い鈍頭形原型のほうがよい。ライナ空気孔開口面積として、図 13 の #07-11 は #07-1 と同一になっており、この状態では、分流板入口開口面積の広いほうがすぐれているといえる。

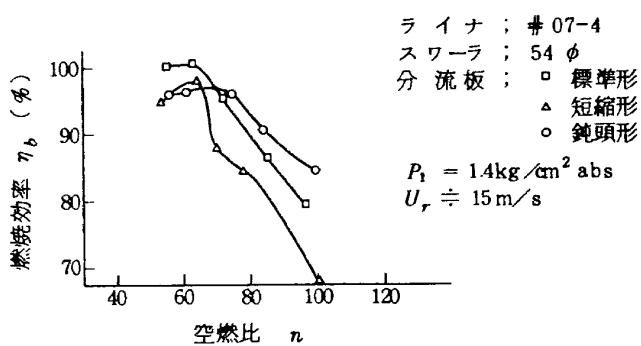


図 11 燃焼効率特性 — 分流板の影響 - I

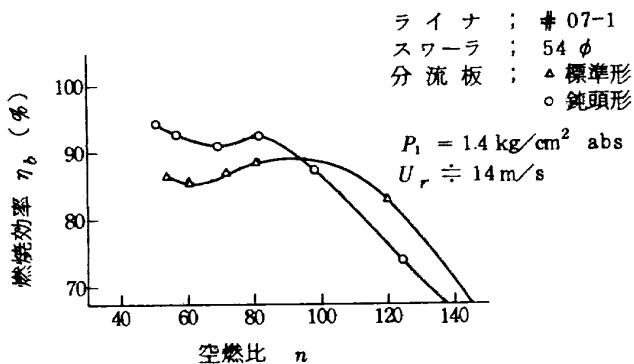


図 12 燃焼効率特性 — 分流板の影響 - II

6.1.2 スワーラの燃焼効率特性に及ぼす影響

スワーラは、その開口面積と下流側の流れ模様が保炎性能、燃料-空気の混合特性、局所空燃比などに影響を与える、燃焼器全体性能にも大きな影響を与えるものである。

スワーラ 54 φ と 52 φ の燃焼効率特性の比較を図 14 に示す。ほとんど差はないが、この状態ではわずか 52 φ スワーラのほうがすぐれている。52 φ スワーラは、箱形燃焼器模型による実験の際、振動燃焼の起きやすい傾向を示したが、アニュラ形模型の場合には現われなかつた。

図 15 は、スワーラ 54 φ と 46 φ の比較で、ライナが少し異なるため厳密にはできないが、これではどちらが良いとも判断できない。しかし、作動条件のことなる図 16 では、明らかに 46 φ のほうがすぐれている。このスワーラの箱形燃焼器模型による実験は、大気圧付近のものであるが、常に 46 φ スワーラのほうが良好な燃焼効率特性を示している。

実験した 3 種類のスワーラについて、図 14 ~ 図 16 から判断すると、スワーラ自体の問題点はないとみられるが、スワーラの効果は、分流板やライナ開口面積によっても変化するので、最適スワーラは、他の構成要素が決

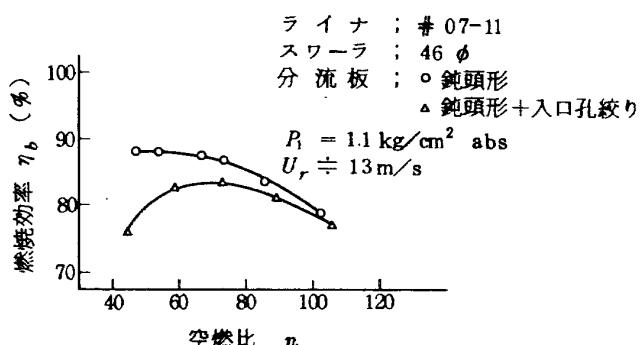


図 13 燃焼効率特性 — 分流板の影響 - III

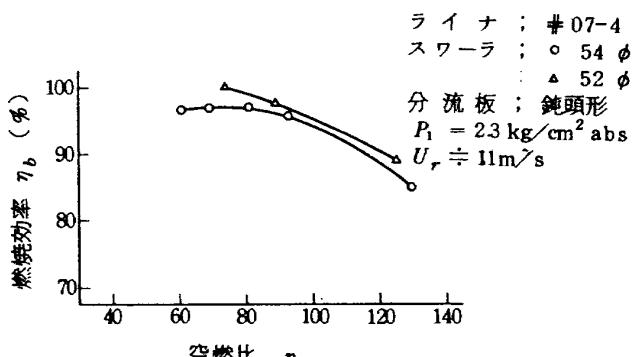


図 14 燃焼効率特性 — スワーラの影響 - I

まらないと求められない。

6.1.3 ライナ希釈孔の燃焼効率特性に及ぼす影響

ライナ希釈孔がライナ上流側の燃焼状態に及ぼす影響は、主にその開口面積にあって、希釈孔配置や希釈孔案内筒高さなどはほとんどないと考えられる。

ライナ #07-1～-4 の比較を図 17 に示す。実験点数が充分にないため、傾向は明らかでないが、#07-1 が好ましい。図 18 によると、ライナ #07-10 より -12 のほうが高い燃焼効率を示す。図 17 と図 18 を合せてみると、鈍頭形分流板と 54 φ スワーラを用いた場合、ライナ原型より希釈孔開口面積として 25～37 cm² 狹いのがよさそうである。

ライナ希釈孔面積に関して図 11 と図 12 を比較すると、希釈孔面積の狭い #07-4 は、空燃比 $n < 70$ の範囲の燃焼効率は高いが、空燃比増加により、急激に低下する。一方、希釈孔面積の広い #07-1 は、空燃比の小さな範囲の燃焼効率が高くなり代り、 $n = 100$ まで効率低下が少ない。また、図 13 の #07-11 の燃焼効率特性は、#07-1 と #07-4 (図 11 と図 12) の中間的な傾向を示すが、#07-11 の希釈孔面積は、#07-1 と同一である。このことは希釈孔面積のみでなく、スワーラの影響が含まれていることを示している。すなわち、スワーラ開口

面積の狭いほうが、空燃比の大きな側の燃焼効率が良い、ということが含まれている。

6.2 出口温度半径方向分布

燃焼器出口温度半径方向分布には、ターピン翼の高温強度や冷却構造などから要求される分布形があり、燃焼器として、これになるべく近い形に調整しておく必要がある。すなわち、ターピン翼端側で高く、翼根側で低い分布形が必要である。

これまでの実験から、出口温度分布として、局所温度上昇を平均温度上昇で割った無次元値にすると実験条件による変化が少なく、相互の比較が容易であった。今回もこのようにして比較を行なう。

半径方向温度分布形には直接関係しないが、円周方向分布の均一性の目安として、噴射弁 (スワーラ) 下流側と中間位置の平均分布形を示すことにした。これは、均一なほど良いが、燃焼器入口空気圧力が高くなると燃料噴霧の貫通距離が減少して分散が悪化し、噴射弁下流側の火炎が長くなりやすく、この出口温度が高くなりがちである。本実験では、高空気圧状態を行なっていないので、噴射弁中間位置の温度のほうが高い状態を好ましいものとした。

6.2.1 分流板の出口温度半径方向分布に及ぼす影響

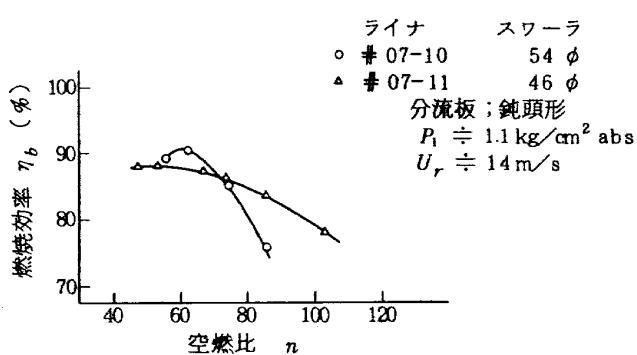


図 15 燃焼効率特性—スワーラの影響 - II

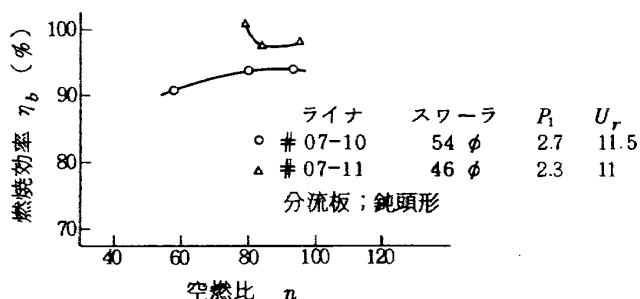


図 16 燃焼効率特性—スワーラの影響 - III

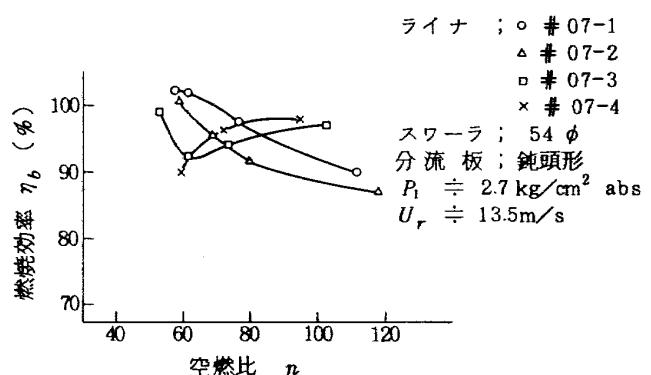


図 17 燃焼効率特性—空気孔の影響 - I

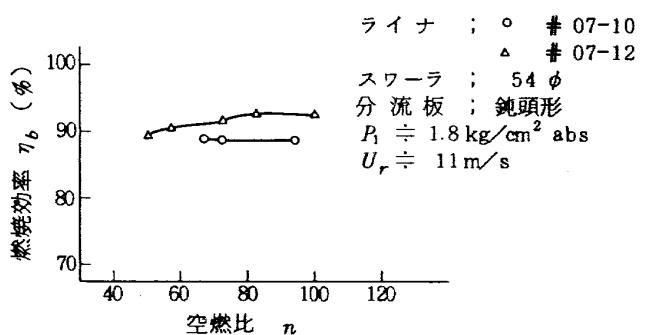


図 18 燃焼効率特性—空気孔の影響 - II

分流板によって、外側ライナ側／内側ライナ側に流れる空気量配分がかわると出口温度半径方向分布が変化する⁸⁾。これを調べるために、分流板 3 種類についての比較を行なった(図 19)。ライナは #07-4 で内側希釈孔を盲したものである。全体に中央部分の温度が高い山形分布で、分流板による差はあまりない。図 20 はライナ #07-1 を用いた場合で、それでも分流板による出口温度半径方向分布の差はあまりない。ただし、噴射弁中間位置の温度は、分流板標準形のほうが高めで、この点はよい。

図 21 は、鈍頭形についてスワーラ空気を取り入れる分流板開口部を原型から 13%ほど絞った効果である。これは、噴射弁下流側と中間位置の温度の差に大きく現われ、入口を絞った場合、中間位置の温度が高くなっている。これは、スワーラからの空気流速を低下させることにより、燃料噴霧がスワーラ主流を横切ってその外側に達するためと考えられる。半径方向の分布形として、分流板入口を絞ったときのものは、ほぼ良いが、半径方向位置 4 をもう少し高温にしたいところである。

分流板の出口温度半径方向分布に及ぼす影響として、

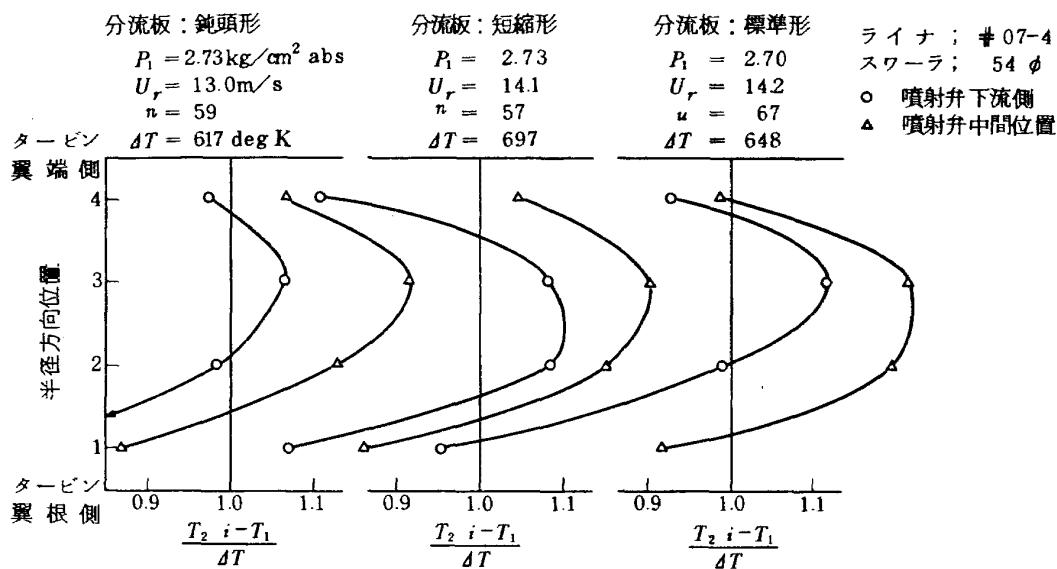


図 19 出口温度半径方向分布—分流板の影響 - I

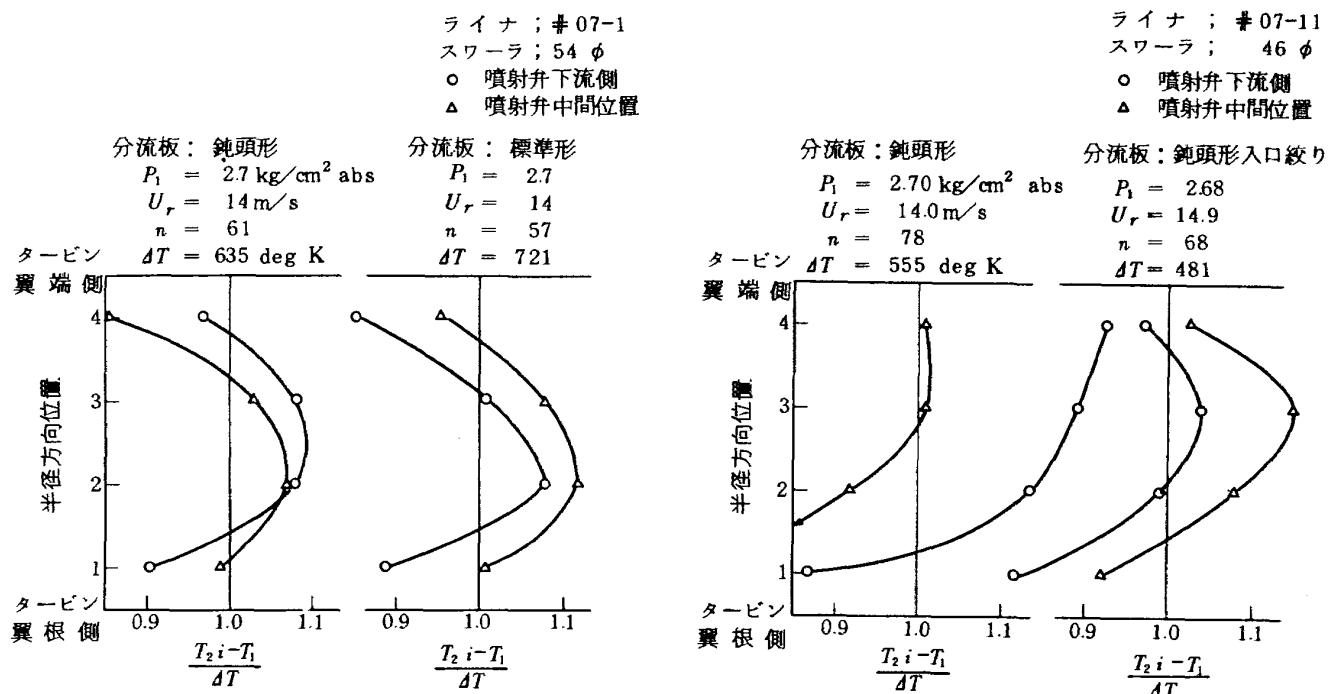


図 20 出口温度半径方向分布—分流板の影響 - II

図 21 出口温度半径方向分布—分流板の影響 - III

スワーラ空気量を一定に保つと、ほとんど影響はないといえる。

6.2.2 スワーラの出口温度半径方向分布に及ぼす影響

スワーラの流れ模様は、出口温度分布形に相当に大きな影響を及ぼすことが箱形燃焼器模型の実験⁹⁾から知られている。これは、一次燃焼領域の様子が下流側まで消えず残るためと考えられる。

図22によると、スワーラ54φと52φの差はほとんどない。しかし、図23の場合は差があり、スワーラ54φより46φのほうが平均した分布形の半径方向の温度勾配は急である。図23の46φスワーラの噴射弁下流側と中間位置の分布形は、分流板入口開口面積を調整すれば揃えることができる（図21）。

以上のことから、スワーラとして54φの差はほとんどないが、46φスワーラは、ターピン翼端側の温度を高くする傾向をもつことがわかる。

6.2.3 ライナ希釈孔の出口温度半径方向分布に及ぼす影響

通常、ライナ希釈孔は、出口温度分布に大きな影響を与えていた。

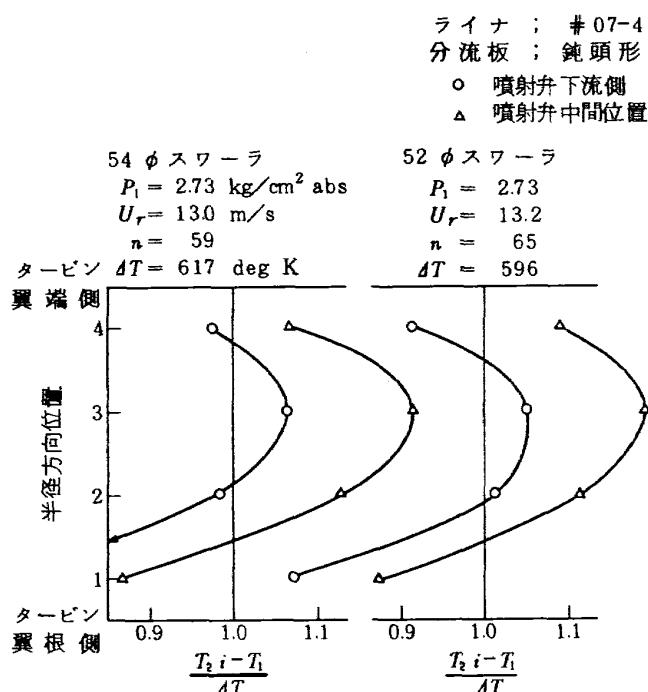


図22 出口温度半径方向分布—スワーラの影響—I

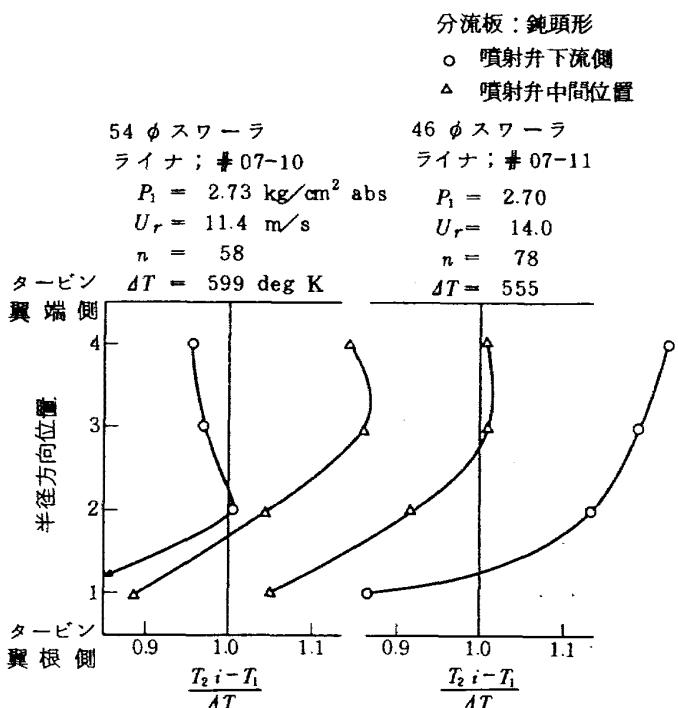


図23 出口温度半径方向分布—スワーラの影響-II

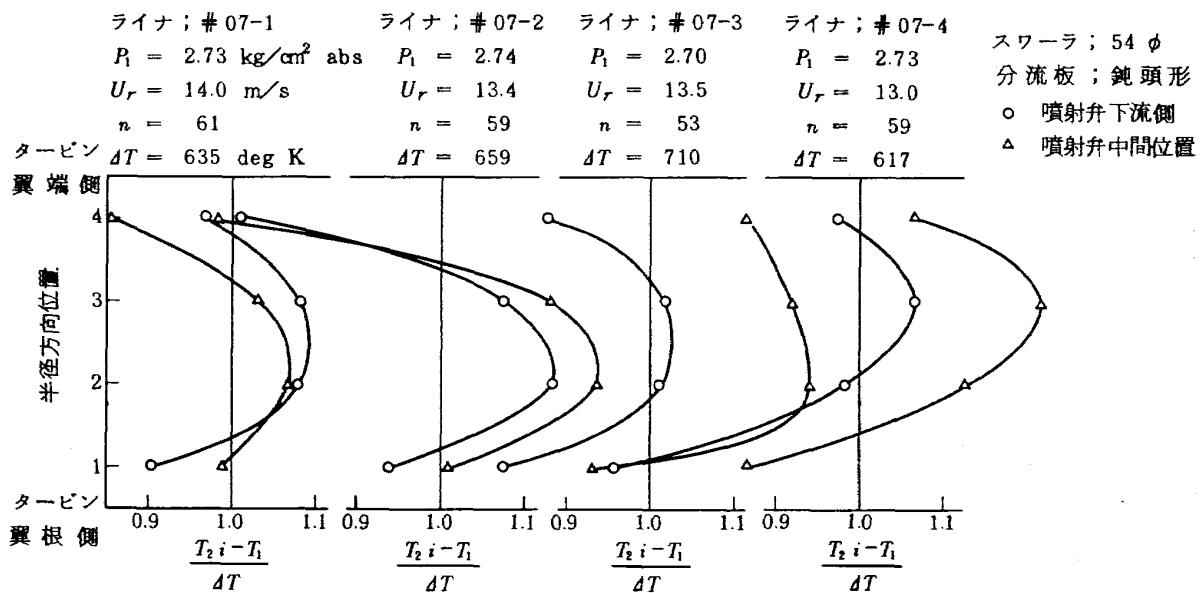


図24 出口温度半径方向分布—空気孔の影響—I

54 φ スワーラと鈍頭分流板を用いたときのライナ希釈孔状態による出口温度半径方向分布の変化を図 24 に示す。図 24 中のライナ #07-1 は、原型に近い形のものであるが、その出口温度分布は、箱形燃焼器模型で得られたものとほとんど同じで、#07 でライナ輪郭やライナ空気孔配分をかえた効果は、現われていない。

#07-2 は、タービン翼端の温度を高める目的から外側ライナ希釈孔を盲したものであるが、結果は予想に反し、外側（タービン翼端側）の温度が低下した。そのため、#07-3 では、内側希釈孔を小さくした。その効果はあったが、分布形の修正はまだ充分でない。この傾向をさらに強めるため、内側希釈孔を全部盲したもののが#07-4 である。効果は充分にあり、内側（タービン翼根側）の温度が低下しすぎるくらいである。

のことから、#07 ライナでは希釈孔からの空気噴流の貫通が大きく、空気孔の反対側のライナ付近まで達していることが判明した。

図 25 は、内側希釈孔を円周方向に 1/2 ピッチまわして、その上流側空気孔列に対し千鳥配列にした効果を示す。千鳥配列により希釈空気噴流の貫通距離が減少し、タービン翼根側の温度が低下したこと、また噴射弁下流側と中間位置との温度差が少なく、円周方向に均一であることが明らかである。これは、軽量ジェットエンジン JR 系燃焼器の実験結果によく一致している¹⁰⁾。

#07-12 は、タービン翼端側の温度のばらつきが大き

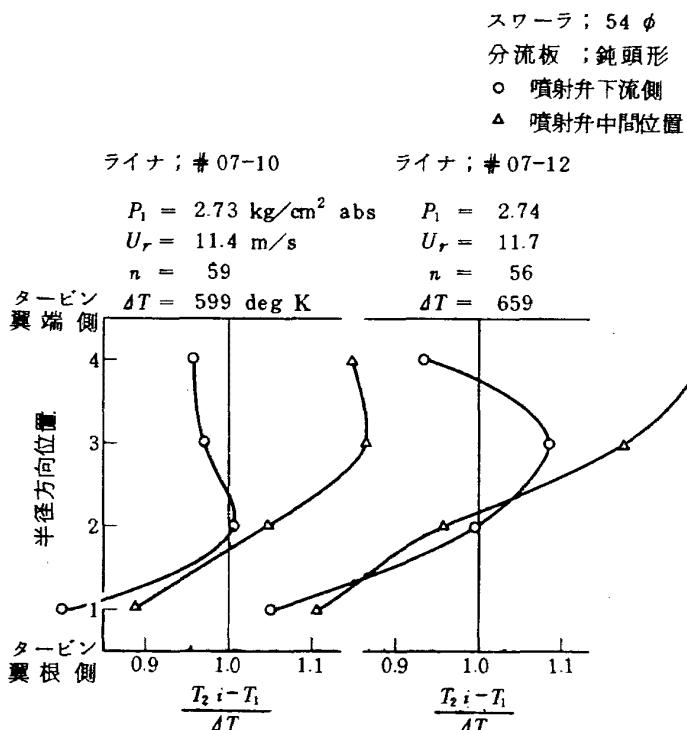


図 25 出口温度半径方向分布 — 空気孔の影響 - II

く、まだ調整の必要はあるが、平均値として、ほぼよい分布形である。

結局、ライナ原型の希釈孔配置では、希釈空気噴流の貫通距離が大きすぎて出口温度半径方向の分布形調整が困難であった。希釈空気の貫通距離減少のため、内側希釈孔を千鳥配列にしたものは、タービン翼根側の温度分布形としては、ほぼ良い形になった。タービン翼端側の温度分布については、スワーラの影響が入るため、使用スワーラを決定したのち、細部の調整を行なう必要がある。

6.3 出口温度不均一率

出口温度不均一率 δ_t は、出口温度のピーク値に関する無次元値で、これをなるべく低く押えることが要求される。ただし、出口温度半径方向分布として、ある分布形に調整すると理想的な状態でも $\delta_t = 0$ にはならない。FJR エンジンでは、設計点状態において $\delta_t \leq 0.2$ を考えている。これに関して実機燃焼器の資料を検討してみると、出口温度半径方向の分布形が良好であれば、空気圧力増加時の不均一率減少を考え合せて、本実験条件で $\delta_t = 0.3 \sim 0.4$ の範囲に入れば合格と考えられる。

ライナ #07 系は、全般に出口温度不均一率が大きめで、実用化に対し、さらに調整する必要がある。

6.3.1 分流板の出口温度不均一率に及ぼす影響

出口温度不均一率は、これまでの実験から³⁾スワーラに流す空気量を増加させると大きくなを傾向を示し、分流板による影響は、相当に大きいと考えられる。

図 26 は、ライナ #07-4 と 54 φ スワーラを組合せたときの 3 種類の分流板についての比較で、これによると分流板標準形と鈍頭形の差はほとんどなく、いずれも $\delta_t > 0.4$ と高めである。分流板短縮形は、平均温度上昇増加とともに不均一率の増大する傾向は好ましくないが、絶対値は低い。

図 27 はライナを開口面積の大きな #07-1 にしたとき

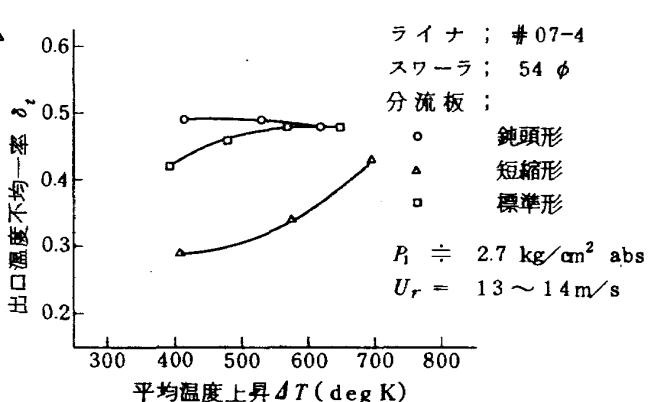


図 26 出口温度不均一率 — 分流板の影響 - I

のもので、これでは鈍頭形がすぐれている。分流板の出口温度不均一率に及ぼす影響は、ライナ希釈孔によってかわることがわかる。

図 28 に分流板鈍頭形の入口開口部絞りの効果を示す。大気圧状態では、平均温度上昇の大きな範囲で原型のほうがすぐれているが、 $P_1 = 2.7 \text{ kg/cm}^2 \text{ abs}$ の加圧状態では、入口絞りの状態のほうが良い。これは、出口温度円周方向の分布形（図 21 参照）の影響と考えられる。

これから、総合的に判断して、分流板として短縮形または鈍頭形入口絞りのものが、#07系に合うようである。

6.3.2 スワーラの出口温度不均一率に及ぼす影響

スワーラの出口温度不均一率に及ぼす影響も、出口温度半径方向分布の場合と同様、かなり大きいと考えられる。

図 29 は、スワーラ 54 φ と 52 φ の比較で、これでは 52 φ のほうがすぐれている。この 52 φ スワーラの場合の値は、図 27 の 54 φ スワーラの場合とほぼ同一であって、ライナ #07-1 には 54 φ スワーラが、#07-4 には 52 φ スワーラが適しているといえる。

スワーラ 54 φ と 46 φ の比較を図 30 に示す。スワーラの比較に対してライナは同一でないが、その影響は少な

いと考えられる。同図から入口空気圧力が大気圧付近では、46 φ スワーラがすぐれているが、46 φ スワーラの場合、空気圧力増加によって、出口温度不均一率が大幅に増加することがわかる。

以上のことから判断すると、スワーラについて 54 φ および 52 φ は、ライナとのマッチング状態によってかわるため、どちらが良いともいえないが、46 φ スワーラは、大気圧付近から $P_1 = 2.7 \text{ kg/cm}^2 \text{ abs}$ と空気圧力を高めるに従って出口温度不均一率の増加することが問題といえる。

ただし、46 φ スワーラでもライナとのマッチングをとる—多分、ライナ空気孔開口面積を減少させると不均一率の低下をもたらすことが考えられる。

6.3.3 ライナ希釈孔の出口温度不均一率に及ぼす影響

ライナ希釈孔配置は、出口温度半径方向分布の場合よりも出口温度不均一率に大きな影響を及ぼすことが考えられる。

54 φ スワーラと分流板鈍頭形を組合せたときのライナ #07-1 ~ -4 の比較を図 31 に示す。平均温度上昇 $\Delta T \geq 600 \text{ deg K}$ の範囲で比較すると不均一率値は小さな順に #07-1, -3, -2, -4 となる。すなわち、#07

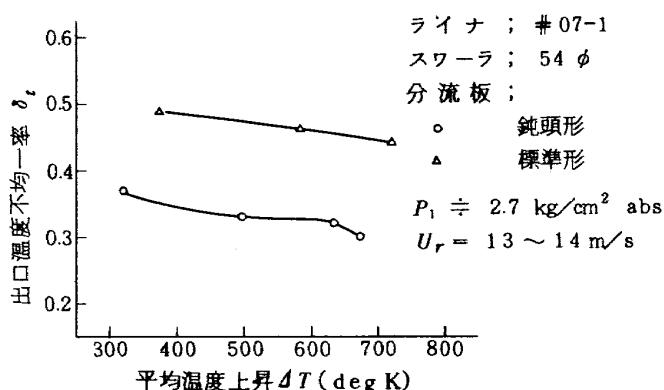


図 27 出口温度不均一率—分流板の影響 - II

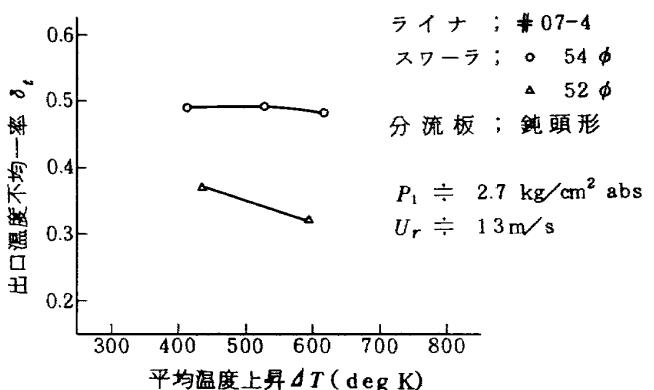


図 29 出口温度不均一率—スワーラの影響 - I

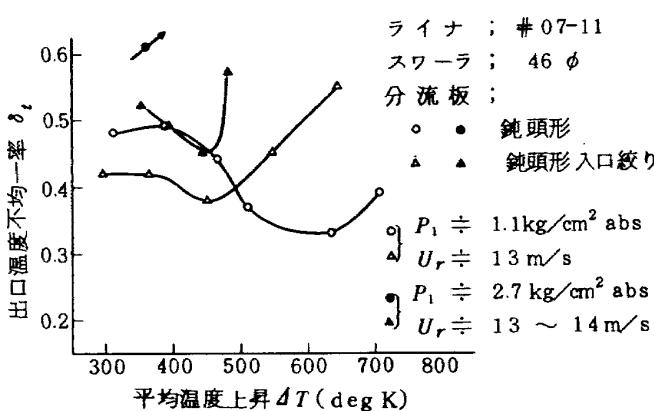


図 28 出口温度不均一率—分流板の影響 - III

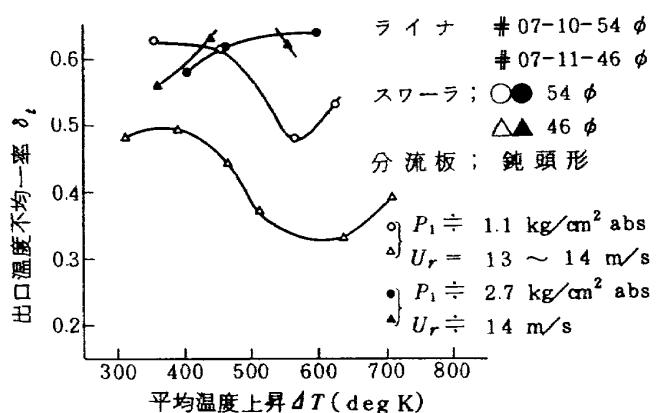


図 30 出口温度不均一率—スワーラの影響 - II

-1 がもっともすぐれている。これは、表 2 から、ライナ希釈孔面積の大きさ順になっていることがわかる。

図 32 は、分流板に標準形を用いたときのライナの比較で、これでは #07-1, -4 の差はない。図 31 の値にくらべて、#07-4 の場合、出口温度不均一率がやや低下したのに対し、#07-1 の場合は上昇している。

図 33 は、内側希釈孔千鳥配列のもので、この図からは #07-10, -12 のいずれがよいとも判定できない。図 33 の不均一率は、図 31 の #07-2, -3, -4 の実験

値と同レベルであるが、ライナ希釈孔面積は #07-0, #07-1 と同一になっている。このあたり、いくぶん内側希釈孔千鳥配列の影響が現われていると考えられる。

良好な出口温度不均一率値をうるライナ希釈孔として、54 φ スワーラの場合は広いほうが良く、52 φ スワーラではやや狭い状態が適している。このことから、46 φ スワーラでは、52 φ スワーラのときよりさらに希釈孔開口面積の狭い状態が適していると推定される。内側希釈孔千鳥配列の不均一率値に及ぼす影響は、少ないといえる。

6.4 全圧損失係数

全圧損失係数は、燃焼器の構造的な面に關係する通風時の値と、温度上昇にともなう增加加分とに分けられる。FJR 系燃焼器の場合、前者の値が後者の値よりはるかに大きく、全体の損失係数が通風時の値でまる形になっている。このことから、各ライナ形式の全圧損失係数の比較として通風時の値を用いた。

6.4.1 分流板の全圧損失係数に及ぼす影響

分流板は、ケーシングとともに燃焼器入口ディフューザ流路を形成するものである。ディフューザ部分の圧力損失は、燃焼器全体の 25 ~ 30 % を占めるため、分流板の全圧損失係数に及ぼす影響は、かなり大きい。

図 34 に 3 種の分流板の比較を示す。これによると標準形と短縮形との差はわずかであるが、鈍頭形の損失係数は低い。鈍頭形の場合、図 34 の最大断面平均風速 $U_r \approx 14 \text{ m/s}$ のところにみられるような、損失係数の階段状の変化を示す。この原因は明らかでないが、この部分における燃焼性能上の変化はみられない。

図 35 は、分流板標準形と鈍頭形について、ライナ #07-1 を用いたときの比較である。傾向は図 34 とかわっていない。損失係数の階段状の変化は、図 34 の場合より大きい。

分流板標準形では、分流板入口部分において流路を急激に絞ることによる損失、流路幅の狭さによるまさつ損失の増加などが考えられ、これを軽減するために短縮形を試作したが、その効果は、ほとんどなかった。

分流板鈍頭形は、製作の容易さを主目的にしたもので、ディフューザ流路形としてすぐれているとは思えないが、全圧損失係数の低下が示され、燃焼器ディフューザの考え方として一つの指針が得られた。ディフューザ壁圧測定結果を参考資料として付録 2 に示す。

6.4.2 スワーラの全圧損失係数に及ぼす影響

スワーラの全圧損失係数に及ぼす影響としては、主に、スワーラに流れる空気流量によると考えられる。今回程度の実験範囲では、大きな変化はないと予想されたが、

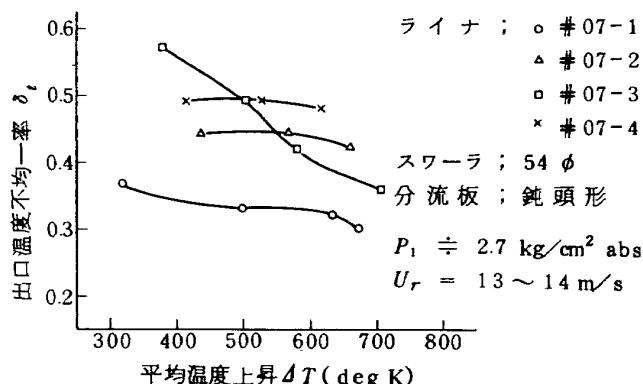


図 31 出口温度不均一率—空気孔の影響—I

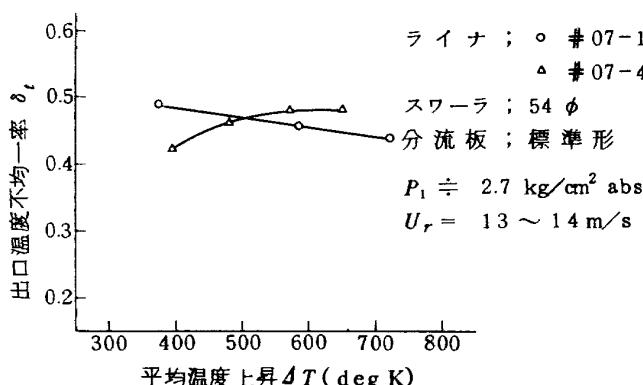


図 32 出口温度不均一率—空気孔の影響-II

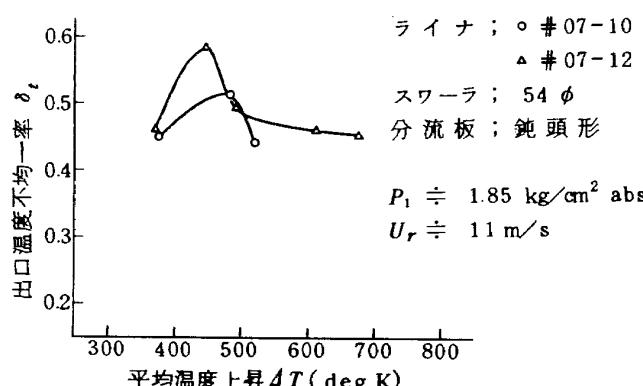


図 33 出口温度不均一率—空気孔の影響-III

一応、比較を行なった。

実験結果を図36および図37に示す。全圧損失係数の差は、全体的にほとんどないといえる。鈍頭分流板のとき現われる損失係数の階段状変化の位置の最大断面平均風速は、スワーラによってかわることが示されている。

6.4.3 ライナ希釈孔の全圧損失係数に及ぼす影響

ライナ希釈孔の形状、開口面積は、ライナ内部の流れ模様に基づく損失とライナ全体の開口面積に関する損失に関係する。

ライナ#07-1～-4の比較を図38に示す。これによ

ると、全圧損失係数の低い順に#07-1, -2, -3, -4となっている。ただし、#07-4を除くと、他の3形式については、実用上ほとんど差がないと考えられる。希釈孔開口面積は、#07-1, -3, -2, -4の順に少なくなっている。全開口面積に対し、それぞれ、-3.7%, -9.2%, -11.0%, -16.0%となっている。図38によると、原型から10%程度の開口面積の減少は、全圧損失係数にほとんど影響しないことがわかる。

図39は、内側希釈孔千鳥配列のもので、希釈孔開口面積の小さな#07-12のほうが-10より低い損失係数を

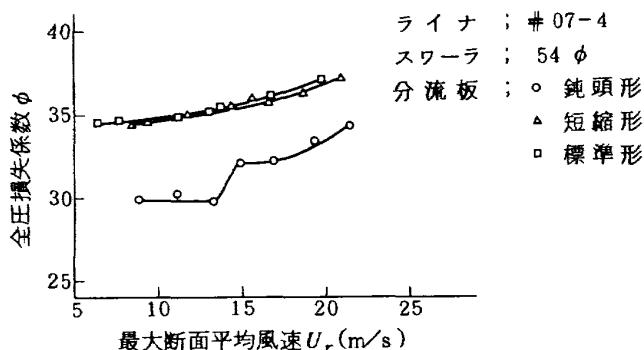


図34 大気圧通風時の全圧損失係数
—分流板の比較-I

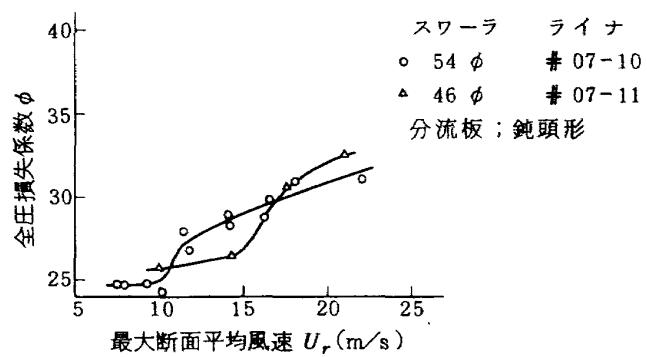


図37 大気圧通風時の全圧損失係数
—スワーラの比較-II

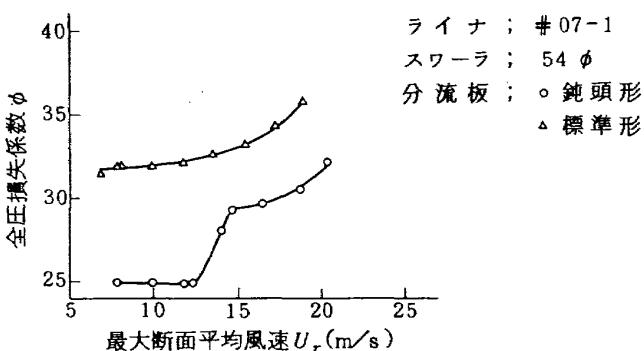


図35 大気圧通風時の全圧損失係数
—分流板の比較-II

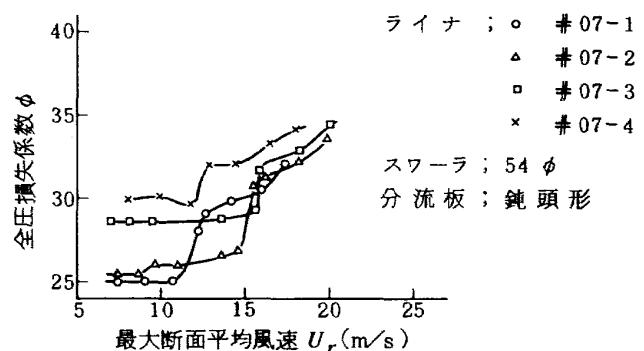


図38 大気圧通風時の全圧損失係数
—空気孔の比較-I

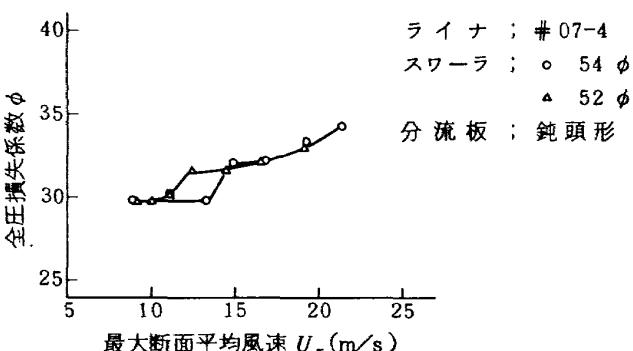


図36 大気圧通風時の全圧損失係数
—スワーラの比較-I

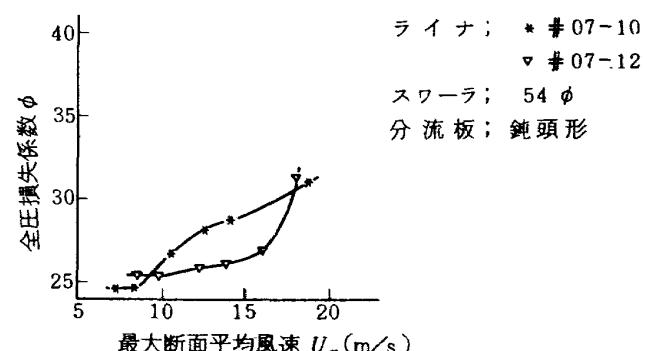


図39 大気圧通風時の全圧損失係数
—空気孔の比較-II

示している。なお、#07-12で得られた値は、実験した形式のうちで、もっとも損失係数の低いものに属している。内側希釈孔千鳥配列は、JR系燃焼器の場合、同一開口面積でも、直列形に対し全圧損失係数の増加をもたらすようであった¹¹⁾。この差異は、希釈孔円周方向のピッチ、希釈孔形状、希釈孔案内筒高さの差によるものと考えられる。

以上のことから、#07について、全圧損失係数には分流板によって 10% 程度の違いがあり、鈍頭形分流板がすぐれている。スワーラの損失係数に及ぼす影響は少ない。ライナ希釈孔の影響は、原型から -11%までの範囲で開口面積を減少させても、ほとんど現われないが、-16% になると明らかに現われ、損失係数の増加がみられた。希釈孔配置もいくぶん影響している。

6.5 火炎長さ

火炎長さは、これまでの実験によると、次の傾向を示す。

- (1) 空燃比を減少させると長くなる。
- (2) 風速を増加させると長くなる。ただし、大気圧付近では、必ずしもこのようにならない。
- (3) 入口空気全圧を高めると、多くの場合、長くなる。
- (4) 入口空気温度を高めると短くなる。

この(1)～(3)から、火炎長さには燃料流量の絶対値が関係しているようであるが、燃焼器の相似則を検討すると¹²⁾、空気圧力上昇により火炎長さの短縮が推定され、特に(3)の傾向は、高空気圧条件ではあてはまらないと考えられる。

本実験の場合、火炎長さは、覗き窓からの観察により、ライナ出口から火炎がほとんどのびていない状態を目安とし、このときの空燃比(=限界空燃比)を調べた。部分的に火炎が長くなる場合は、その箇所の長さを基準にした。したがって、限界空燃比のときにも平均的には、火炎の充分に短い場合がある。

限界空燃比の要求として、エンジンアイドリング状態の $P_1 \approx 3 \text{ kg/cm}^2 \text{ abs}$, $n = 70 \sim 80$ を考えると、本実験範囲の最高圧力 $P_1 \approx 2.7 \text{ kg/cm}^2 \text{ abs}$ において限界空燃比を $n \leq 70$ にしたい。

6.5.1 分流板の火炎長さに及ぼす影響

火炎長さは、スワーラに流れる空気量やライナ空気孔からの流入空気配分の微妙な変化によってかわるので、分流板の影響は相当に大きい。

ライナ #07-4について調べた 3 種類の分流板の結果を図 40 に示す。図中、実験点に括弧をつけたものは各種の風速時に得られた値の平均値である。括弧のない値は、風速をかえても限界空燃比がほとんど変化しないこ

とを示している。図の横軸の限界空燃比は、これ以下になると火炎がのびることを意味し、限界空燃比の小さいものほど火炎長さは短いといえる。

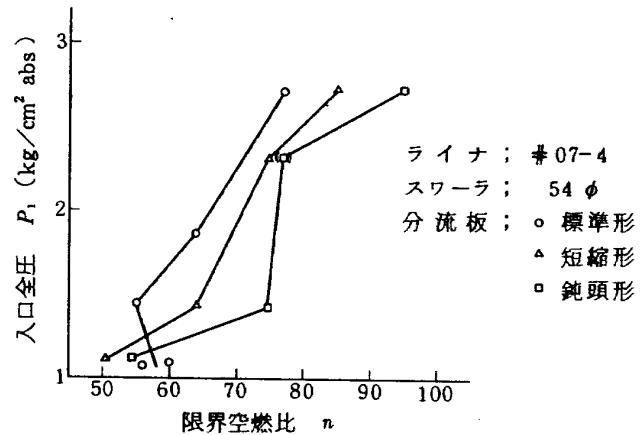


図 40 火炎長さの限界空燃比—分流板の影響 - I

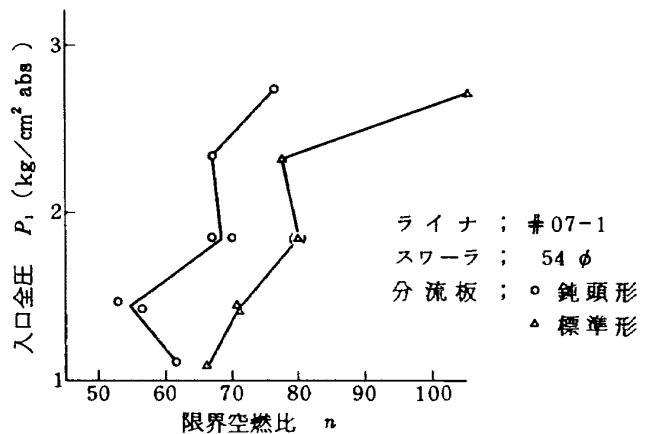


図 41 火炎長さの限界空燃比—分流板の影響 - II

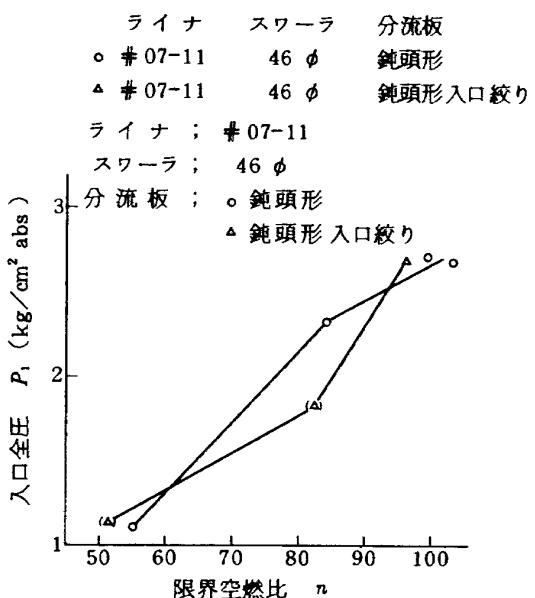


図 42 火炎長さの限界空燃比—分流板の影響 - III

図 40 によると、分流板の火炎長さに及ぼす影響として、分流板標準形がもっとも短く、短縮形、鈍頭形の順に長くなっている。しかし、図 41 では、ライナ # 07-1 の場合であるが、標準形より鈍頭形のほうが火炎は短く、ライナによって分流板の影響が変化することを示している。なお、図 41 の分流板鈍頭形の火炎長さは、図 40 の標準形のそれとほとんど一致している。

図 42 は、分流板鈍頭形について、入口絞りの火炎長さに及ぼす影響を調べたものであるが、ほとんどこれによる変化はない。

火炎長さの点から、54 φ スワーラを用いたときライナ # 07-1 では分流板標準形が、ライナ # 07-4 のときは鈍頭形が短い火炎長さを示して好ましい。分流板短縮形は、標準形と鈍頭形の中間的な性能を示す。

6.5.2 スワーラの火炎長さに及ぼす影響

スワーラの火炎長さに及ぼす影響として、保炎性能が関係し、その開口面積と流れ模様などの因子が考えられる。たとえば、保炎性能の良いスワーラでは、短い火炎が得られる。

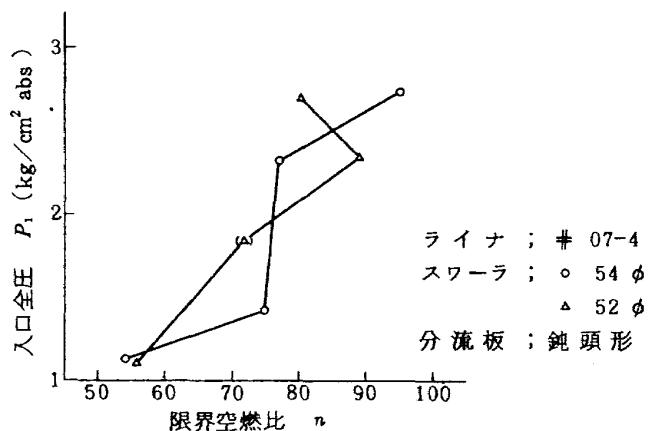


図 43 火炎長さの限界空燃比—スワーラの影響—I

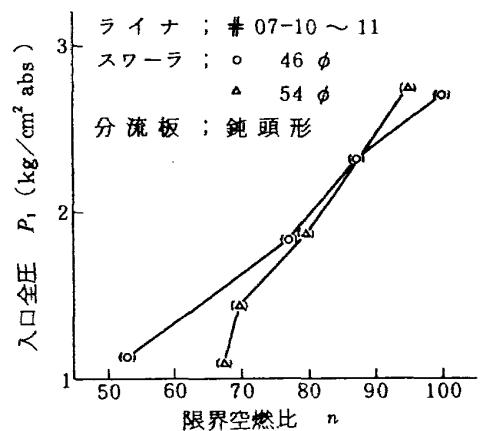


図 44 火炎長さの限界空燃比—スワーラの影響—II

火炎長さに及ぼすスワーラの影響を図 43 および図 44 に示す。図 43 によると、スワーラ 54 φ と 52 φ の差はみられない。図 44 は、スワーラ 54 φ と 46 φ の場合であるが、限界空燃比は風速によっていくぶんかわるので、その平均値を示した。46 φ スワーラは、大気圧付近では、短い火炎を示すが、空気圧力とともに増加し、 $P_i \geq 1.8 \text{ kg}/\text{cm}^2 \text{ abs}$ の範囲では、54 φ スワーラの場合とほとんど差がないか、逆に長くなる傾向を示す。

この 46 φ スワーラの火炎長さに及ぼす影響は、ライナ形式によってことなることが考えられるので、一概にはいえないが、火炎長さの点では 54 φ ~ 52 φ スワーラが、46 φ スワーラより有利と判断される。

6.5.3 ライナ希釈孔の火炎長さに及ぼす影響

ライナ希釈孔開口面積とその配置は、火炎長さに対し次のような効果をもつと考えられる。

- (1) 希釈空気噴流は、火炎のびを抑える作用をもち、希釈孔開口面積を減少させるとこの作用が減少して火炎が長くなりやすい。
- (2) 希釈孔開口面積を減少させると、全ライナ開口面積

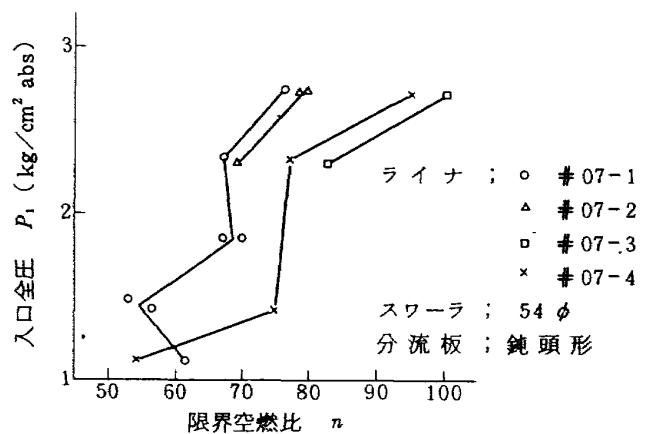


図 45 火炎長さの限界空燃比—ライナの影響—I

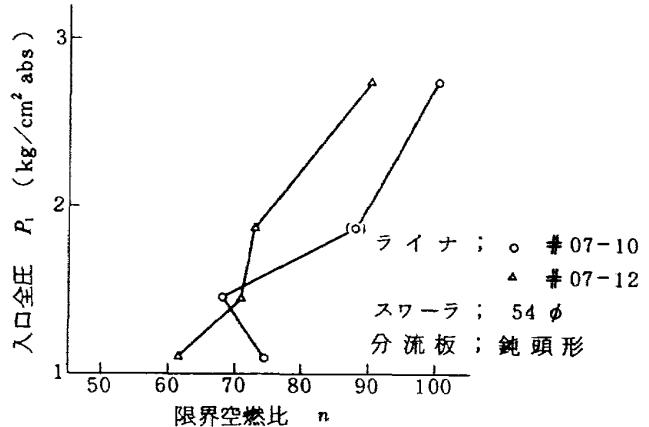


図 46 火炎長さの限界空燃比—ライナの影響—II

が減少し、ライナ空気孔からの空気噴流流速が増して、ライナ内部の混合が促進される。また、燃焼領域に流入する空気量割合が増加するため、火炎長さを短くするように働く。

(3) 火炎長さを押えるに有効な希釈孔配置が存在する。

以上のこと調べるために、整理した結果を図 45 および図 46 に示す。図 45 によると、ライナ # 07-1 の場合が、もっとも短い火炎長さを示し、# 07-2, -4, -3 の順に長くなる。

ライナ # 07-1 は、希釈孔開口面積が広く、その空気噴流により火炎ののびが抑えられている。ライナ # 07-2 は、外側ライナ希釈孔を全部盲したもので、出口温度半径方向分布(図 24)によると、内径側の温度が高く、内側希釈孔からの空気噴流が、この高温部分を貫通して外径側まで達している状態を示す。このような場合は、火炎長さがほとんど増加しないことがわかる。ライナ # 07-2 にみられる内側希釈孔からの空気噴流の効果は、# 07-3 では弱められると予想されるが、結果もその通りで、火炎は長い。ライナ # 07-4 は、火炎長さを押えるに有効な内側希釈孔を盲しているので火炎は長めであるが、ライナ全開口面積減少の効果(全圧損失係数が高いことから推定)により、# 07-3 の場合よりは短めである。

図 46 は内側希釈孔千鳥配列の効果で、ライナ # 07-12 より -10 のほうが火炎長さが短い。ただし、図 45 と比較すると、# 07-10 の火炎長さは # 07-4 のそれと同程度で、内側希釈孔千鳥配列は、希釈空気噴流貫通距離の減少から、火炎長さが長めになるようである。結局、火炎長さの観点からは、ライナ # 07-1 がすぐれている。

7. 実験結果のまとめ

呼称 # 07 ライナとして、箱形燃焼器模型の実験結果をもとに主流方向にライナ空気孔 3 個のものを製作し、スワーラ 3 種類、分流板 3 種類を組合せて実験を行なった。ライナは、出口温度半径方向分布の修正を目的にして、希釈孔を調整した。

燃焼効率特性、出口温度半径方向分布、出口温度不均一率、全圧損失係数および火炎長さについて検討した結果、次の事柄が判明した。

(1) 燃焼効率特性について — ライナ空気孔開口面積の大きなものには、分流板入口開口面積の広いものが適する。すなわち、ライナ # 07-1 や # 07-10 には分流板鈍頭形が適し、ライナ # 07-4 には標準形が適する。

スワーラ 54 φ と 52 φ では、大差はないが、どちらかというと 52 φ のほうがすぐれている。46 φ スワー-

ラは、空燃比の大きな範囲の性能がよい。スワーラについては、分流板やライナ空気孔開口面積など他の構成要素と組合せて、最適なものを選定する必要がある。

(2) 出口温度半径方向分布について — 分流板をかえた影響は現われず、スワーラをかえても変化は少なかった。ただし、46 φ スワーラの場合、ターピン翼端側の温度をいくぶん高めにする傾向を示した。ライナ希釈孔の配列については、内側希釈孔をその上流側の空気孔列に対し、円周方向に 1/2 ピッチずらした千鳥配列が有効であった。しかし、これについてもさらに調整の必要がある。

(3) 出口温度不均一率について — これは、燃焼効率特性の場合とほぼ同様な傾向を示す。すなわち、ライナ # 07-1 については分流板鈍頭形と 54 φ スワーラが適し、ライナ # 07-4 については、分流板短縮形と 52 φ スワーラが適する。46 φ スワーラは、空気圧力上昇によって、不均一率が急増する傾向を示す。

内側希釈孔千鳥配列による不均一率の変化は、ほとんどなかった。

(4) 全圧損失係数について — 分流板については鈍頭形がすぐれている。スワーラによる損失係数の変化は、ほとんどない。ライナ希釈孔開口面積は、相当に大きく変化させたが、# 07-4 のみ高めの値を示し、他は同一レベルになっている。

(5) 火炎長さについて — ライナと分流板の組合せについては、燃焼効率特性と同様な傾向を示す。スワーラについて 54 φ と 52 φ の差はない。46 φ スワーラは、入口空気圧力上昇によって火炎長さが急激に増加する。これは、出口温度不均一率の傾向と関連している。ライナ希釈孔千鳥配列は、直列形より長めの火炎を示す。

(6) 以上の結果を総合して判断すると、ライナ # 07-1、スワーラ 52 φ (または 54 φ)、分流板鈍頭形の組合せが燃焼効率特性、出口温度不均一率、全圧損失係数および火炎長さの点ですぐれている。しかし、出口温度半径方向分布をいくぶん改善する必要がある。出口温度半径方向分布形としては、# 07-12 が適している。しかし、まだ細部の調整を必要とし、そのほかに燃焼効率特性、出口温度不均一率、火炎長さについても改善する必要性が残されている。

これらのことから 3 孔形ライナは 4 孔形に比べ、各性能を最良にする調整がむずかしいといえる。

文 献

- 1) 鈴木邦男, 石井浅五郎; FJR エンジン用高圧形セクタ燃焼器模型の実験(II), 航技研資料TM-269 (1975-1) 「配布先限定」
- 2) 鈴木邦男, 石井浅五郎; FJR エンジン用高圧形セクタ燃焼器模型の実験(I), 航技研資料TM-265 (1974-10) 「配布先限定」
- 3) 鈴木邦男, 石井浅五郎; 高圧燃焼器の研究(II), 航技研資料TM-242 (1973-6) 「配布先限定」
- 4) 鈴木邦男, 石井浅五郎; 高圧燃焼器の研究(III), 航技研資料TM-285 (1975-10) 「配布先限定」
- 5) 鈴木邦男, 石井浅五郎; 高圧燃焼器の研究(N), 航技研資料TM-292 (1976-2) 「配布先限定」
- 6) 航技研資料として近く発表予定
- 7) 航技研資料として近く発表予定
- 8) 大塚貞吉, 鈴木邦男, 石井浅五郎, 山中国雍; 超軽量ジェットエンジン試作1号機(JR100)の燃焼器(I), 航技研資料TM-68 (1965-11)
- 9) 鈴木邦男, 斎藤 隆, 石井浅五郎, 山田秀志; 高圧形セクタ燃焼器模型の実験(I), 航技研資料TM-260 (1974-8)
- 10) 鈴木邦男, 石井浅五郎, 広瀬健樹, 大塚貞吉, 山中国雍; 軽量ジェットエンジン研究試作2号機(JR200)の燃焼器(I), 航技研資料TM-93 (1966-10)
- 11) 大塚貞吉, 鈴木邦男, 石井浅五郎, 広瀬健樹, 山中国雍; 軽量ジェットエンジン試作1号機(JR100)の燃焼器(II), 航技研資料TM-129 (1968-4)
- 12) D. G. Stewart; Scaling of Gas Turbine Combustion Systems, Selected Combustion Problems II, Butterworths, p. 384 (1956).

付録 1 出口温度半径方向分布修正の実験

主流方向のライナ空気孔 3 個形ライナについて、出口温度半径方向分布改善のため、箱形燃焼器模型を用い、希釈空気孔配置の調整を行なった。

付 1.1 燃焼器模型

燃焼器模型としては、ライナ空気孔の改造の容易さから、CC 20 S-2 より前に実験を行なった呼称 CC 10 S-2 を用いた。この燃焼器の性能については、航技研資料 TM-260 を参照されたい⁹⁾。燃料噴射弁には、呼称 CC 10²⁾ 3 本を用いた。

希釈孔模型として付図 1 に示す形のものを製作した。これらの希釈孔配置は、これまでの軽量ジェットエンジン JR 系の燃焼器実験結果¹¹⁾ から求めたものである。

付 1.2 実験条件

次の条件で燃焼実験を行なった。

(1) 希釈孔配置形の組合せ

- (i) 外側希釈孔 - I と内側希釈孔 - I
- (ii) 外側希釈孔 - II と内側希釈孔 - I
- (iii) 外側希釈孔 - II と内側希釈孔 - II
- (iv) 外側希釈孔 - I と内側希釈孔 - II

(2) 空気側および燃料側条件

- (i) 燃焼器入口空気圧力 ; $P_1 = \text{ほぼ大気圧}$
- (ii) 燃焼器入口空気温度 ; $T_1 = 300 \sim 315 K$
- (iii) 最大断面平均風速 ; $U_r = 18 \sim 19 m/s$
- (iv) 空燃比 ; $n = 55 \sim 60$
- (v) 使用燃料 ; Jet A-1

付 1.3 実験結果

燃焼器出口温度を半径方向に 4 点、円周方向(横方向)に 5箇所測定した結果を付図 2 ～付図 5 に示す。出口温度横方向の分布にはばらつきが大きく、精度的にやや問題があるが、一応の傾向はわかる。これから外側希釈孔 - II および内側希釈孔 - I は、それぞれターピン動翼翼端側、翼根側で相当に温度を低下させる効果をもつことが判明する。外側希釈孔 - I および内側希釈孔 - II は、半径方向に、なめらかな分布をつくる効果がある。

付図 2 に示す外側希釈孔 - I と内側希釈孔 - I の組合せは、平均値をみるとほぼよい分布形であるが、測定位 3 の温度が少し低く、測定位 2 の温度が高めである。なお、所要の分布形としては、同図 C のような形を考えている。

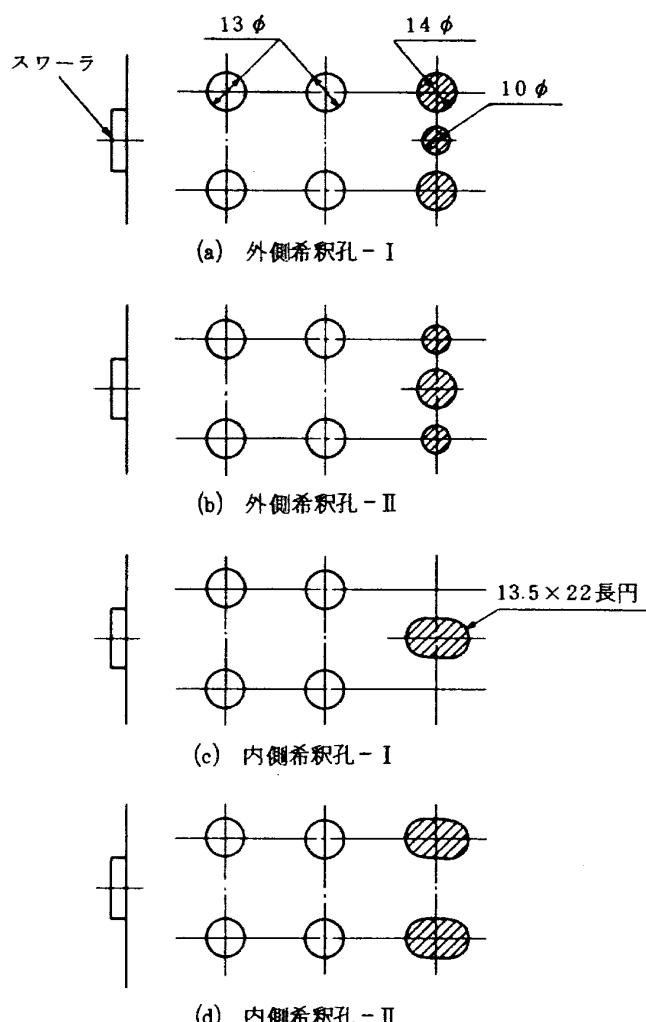
外側希釈孔 - II と内側希釈孔 - I の組合せ(付図 3)は、半径方向中央部分が高温になる傾向を示し、好まし

くない。

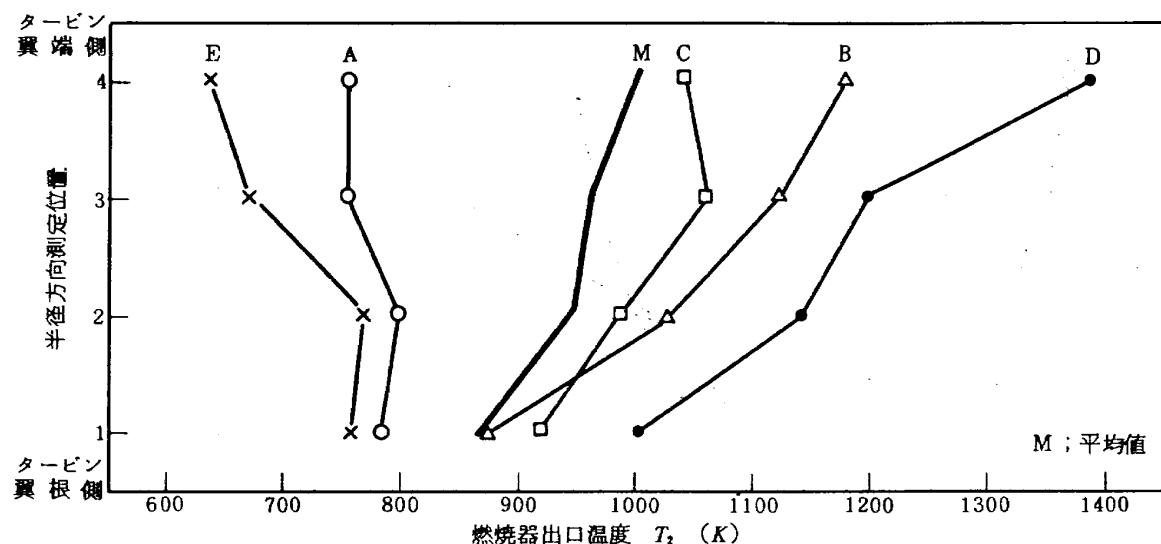
外側希釈孔 - II と内側希釈孔 - II の組合せ(付図 4)は、温度計 B の示す分布を除き、いずれもターピン翼根側で高温になる傾向を示し、これも好ましくない分布形である。

外側希釈孔 - I と内側希釈孔 - II の組合せ(付図 5)は、各温度計によるばらつきが大きく、この点は好ましくないが、平均値では、試験したものの中、もっとも所要の分布形に近い。

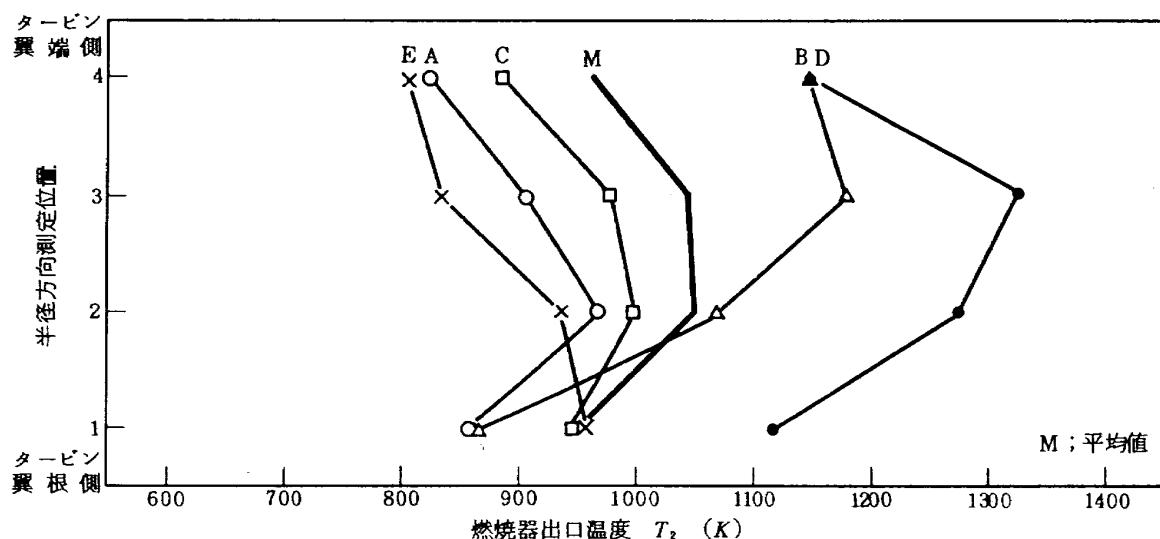
以上の結果から、外側希釈孔 - I と内側希釈孔 - II または - I の組合せがよいと判断され、# 07 ライナ原型としては、外側希釈孔 - I と内側希釈孔 - II を採用した。内側希釈孔 - I は、これまでの経験から全圧損失の点で - II より不利と考えたためである。



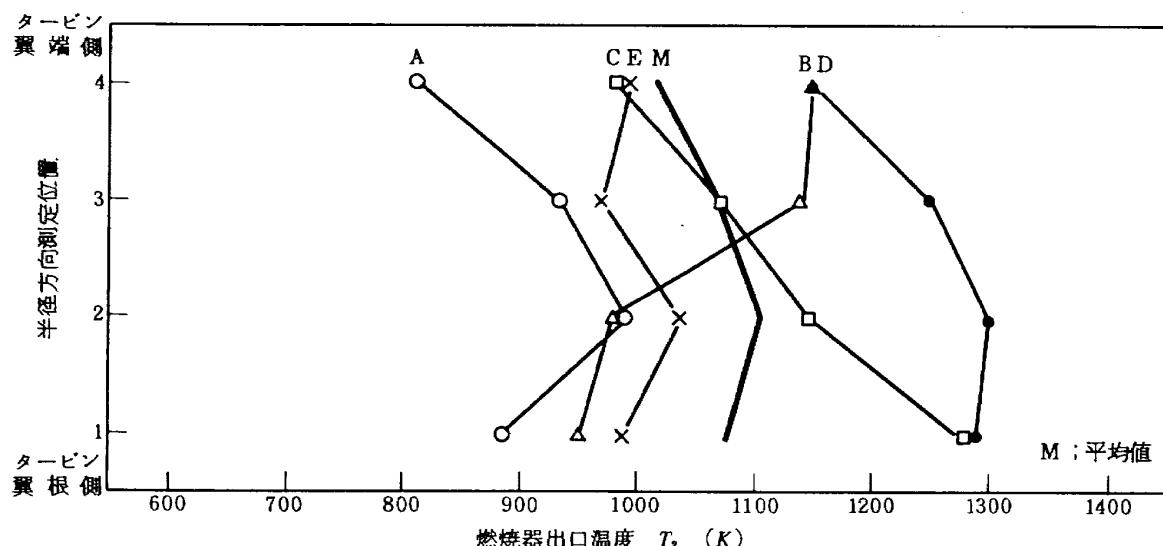
付図 1 実験した希釈孔(斜線入のもの)配置



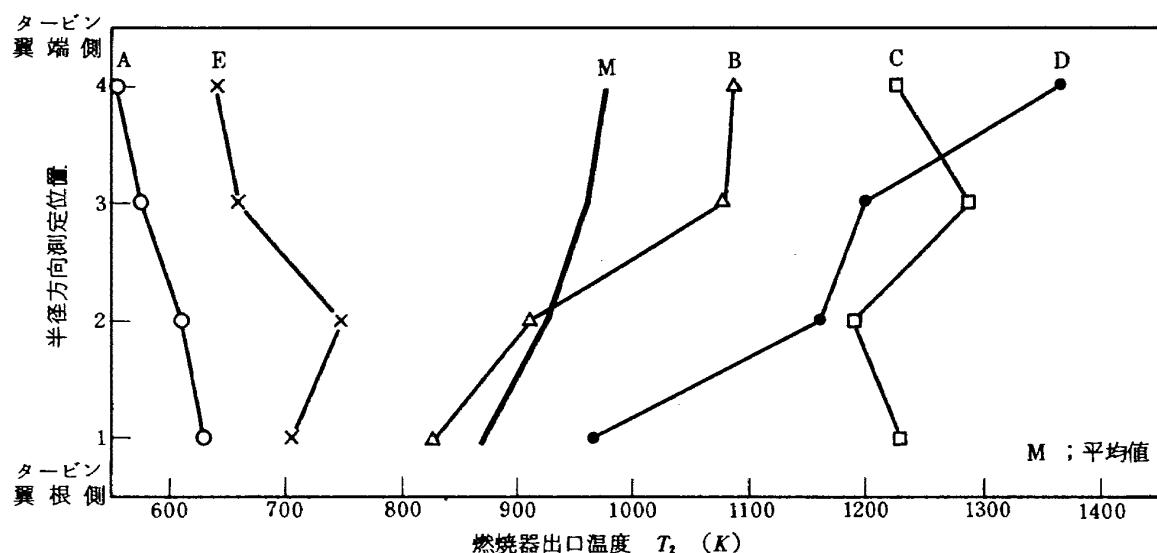
付図2 外側希釈孔-Iと内側希釈孔-Iを組合せたときの出口温度分布



付図3 外側希釈孔-IIと内側希釈孔-Iを組合せたときの出口温度分布



付図4 外側希釈孔-IIと内側希釈孔-IIを組合せたときの出口温度分布



付図 5 外側希釈孔 - I と内側希釈孔 - II を組合せたときの出口温度分布

付録2 ディフューザ壁圧分布

分流板による全圧損失係数の変化については本文で述べたが、これに関連するディフューザ壁圧分布の比較を行なう。

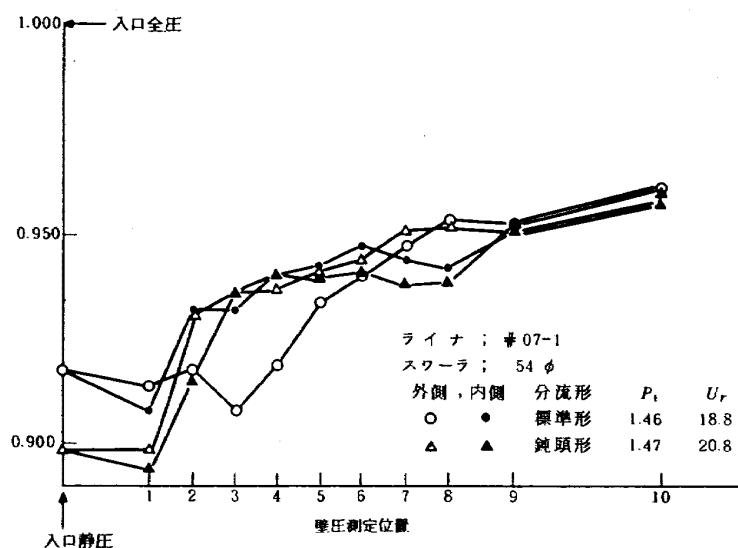
燃焼実験中に測定した結果を無次元値にして付図6および付図7に示す。壁圧測定位置は、第Ⅱ報のもの³⁾と同一で、位置2のところに標準形分流板の入口部があり、位置7-8間にライナ隔壁板が、位置8-9の間にライナ第1列空気孔がある。位置10は、ライナ最終空気孔の下流側である。

標準形分流板の場合、内径側の壁圧分布はほぼよいが、外径側の位置3の付近で圧力が大きく低下している。この部分は流路がわん曲しており、この影響が入っている。位置7-8の圧力には、ライナ第1列冷却スリットの影

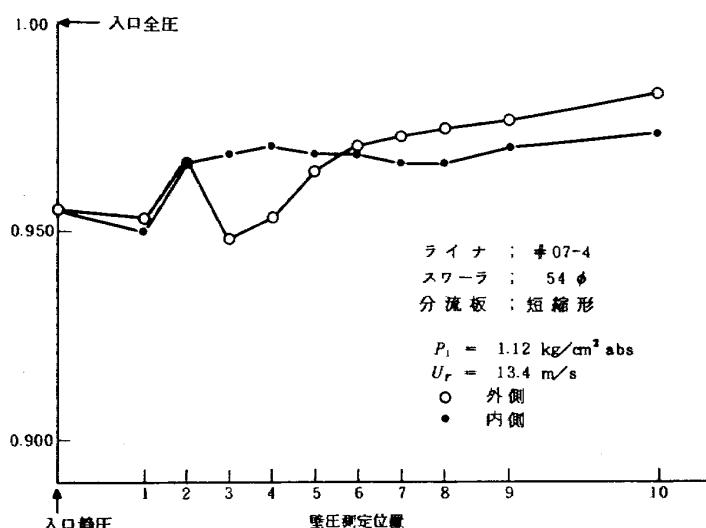
響が入っている。

鈍頭形分流板では、標準形分流板の内径側の壁圧分布と同様な傾向を示し、良好である。同図の場合、鈍頭形分流板のときのほうが風速が大きく、入口静圧が低下しているが、ディフューザ出口側では、標準形のそれと同一になっており、ディフューザ効率の高いことを示している。分流板標準形と鈍頭形の違いは、測定位置1-2間の壁圧上昇の割合にあり、標準形では、分流板入口形状の圧力損失に及ぼす影響が大きいと判断される。

分流板短縮形の結果を付図7に示す。測定位置1-2間の壁圧上昇は大きいが、外径側の位置3の圧力低下は標準形の場合と同様に残っている。その他に、標準形と大きな違いはない。



付図6 ディフューザ壁圧分布—分流板の影響-I



付図7 ディフューザ壁圧分布—分流板の影響-II

実験結果一覧表
ライナ；#07-1, スワーラ 54°, 分流板：鈍頭形

N.O.	P_1 kg/cm ² abs	w_a kg/s	w_f kg/s	U_r m/s	t_1 ℃	t_2 ℃	ΔT deg K	δ_t	σ deg K	T_2/T_1 K/K	$\Delta P/P_1$	ϕ	n	η_b %	L_b kcal/m ³ atm	P_f kg/cm ² G	M
															P		
通風	1.173	3.895	0	20.36	39.2	39.1	—	—	—	1.0	0.074	32.1	—	—	—	—	—
"	1.140	3.314	0	18.68	54.3	53.9	—	—	—	1.0	0.057	30.5	—	—	—	—	—
"	1.114	2.827	0	16.42	56.7	56.0	—	—	—	1.0	0.042	29.7	—	—	—	—	—
"	1.097	2.471	0	14.65	58.3	57.5	—	—	—	1.0	0.033	29.2	—	—	—	—	—
"	1.077	2.026	0	12.30	59.8	58.8	—	—	—	1.0	0.020	24.9	—	—	—	—	—
"	1.064	1.613	0	9.91	60.0	59.0	—	—	—	1.0	0.013	24.9	—	—	—	—	—
"	1.056	1.270	0	7.83	58.9	57.6	—	—	—	1.0	0.008	24.9	—	—	—	—	—
"	1.073	1.923	0	11.78	61.5	60.5	—	—	—	1.0	0.018	24.9	—	—	—	—	—
"	1.090	2.309	0	14.03	64.2	63.1	—	—	—	1.0	0.029	28.0	—	—	—	—	—
1001	1.107	2.343	0.0151	14.16	67.7	279.0	211.3	0.73	60.0	1.62	0.027	26.1	155.1	68.2×10^7	7	0	0
1002	1.112	2.334	0.0207	14.40	76.1	366.4	290.3	0.52	80.5	1.83	0.027	26.0	112.9	77.6	2.0	10	0
1003	1.113	2.335	0.0257	14.20	71.5	470.0	398.5	0.53	90.2	2.16	0.027	26.4	91.0	91.2	3.0	15	0
1004	1.118	2.315	0.0344	14.24	77.2	575.1	497.8	0.62	114.9	2.42	0.027	26.5	67.3	85.7	3.7	15	0.05
1005	1.122	2.303	0.0375	14.21	79.7	670.8	591.1	0.54	122.4	2.68	0.027	26.9	61.4	94.1	4.4	15	0.1
1006	1.126	2.295	0.0433	14.17	81.1	758.6	677.4	0.41	117.1	2.91	0.026	26.5	53.0	94.2	5.1	15	0.2
1007	1.456	3.070	0.0201	14.88	86.2	286.9	200.7	0.56	—	1.56	0.031	29.1	153.0	62.3	1.2	10	0
1008	1.442	3.100	0.0251	15.24	87.7	349.4	261.7	0.46	63.2	1.73	0.033	29.3	123.7	74.1	1.8	15	0
1009	1.465	3.058	0.0313	14.90	90.5	445.3	354.8	0.93	105.0	1.98	0.032	30.1	97.8	87.2	2.6	15	0.05
1010	1.448	3.084	0.0380	15.27	91.9	541.0	449.0	0.80	115.7	2.23	0.033	29.8	81.1	92.6	3.4	15	0.6
1011	1.425	3.121	0.0453	15.75	93.1	604.7	511.6	0.62	104.8	2.40	0.036	30.9	68.8	90.5	4.0	15	0.7
1012	1.431	3.100	0.0549	15.64	94.5	721.2	626.7	0.48	125.9	2.71	0.036	30.8	56.5	92.7	5.0	15	0.85
1013	1.428	3.094	0.0611	15.69	95.7	799.2	703.5	0.44	136.7	2.91	0.037	31.4	50.6	94.3	5.7	15	1.0
1014	1.459	4.155	0.0250	20.76	98.1	277.4	179.4	0.35	33.2	1.48	0.064	31.5	166.6	60.9	1.5	15	0
1015	1.477	4.129	0.0397	20.55	101.4	427.7	326.3	0.55	80.1	1.87	0.062	31.4	104.0	85.2	3.2	15	0.6

N ^o	P_1 kg/cm ² abs	w_a kg/s	w_f kg/s	U_r m/s	t_i °C	t_2 °C	ΔT deg K	δ_t	σ deg K	T_2/T_1 K/K	$\Delta P/P_1$	ϕ	n	η_b %	L_b kcal/m ³ atm	P_f kg/cm ²	G	P	M
1016	1.460	4.155	0.0495	20.97	102.4	511.9	409.5	0.51	92.6	2.09	0.065	32.1	84.0	87.4	4.2	1.5	0.75		
1017	1.470	4.134	0.0589	20.80	103.6	610.0	506.5	0.46	108.0	2.35	0.064	32.1	70.1	91.6	5.2	1.5	0.95		
1018	1.476	4.134	0.0680	20.80	105.1	709.2	604.1	0.36	122.4	2.60	0.065	32.3	60.7	95.8	6.2	1.5	1.2		
1019	1.476	4.135	0.0786	20.86	106.1	813.5	707.4	0.40	139.0	2.87	0.066	33.1	52.6	98.6	7.4	1.5	1.5		
1020	1.843	3.587	0.0243	13.91	90.7	321.2	230.5	0.40	44.0	1.63	0.027	29.3	147.7	72.4	1.3	1.5	0		
1021	1.828	3.590	0.0338	14.13	93.4	408.1	314.8	0.64	99.0	1.86	0.028	29.7	106.2	83.5	2.2	1.5	0.95		
1022	1.876	3.552	0.0421	13.69	95.2	531.3	436.1	0.68	98.5	2.18	0.026	29.0	84.3	93.3	2.9	1.5	1.1		
1023	1.847	3.575	0.0533	14.06	96.9	642.6	545.7	0.41	112.9	2.48	0.029	30.9	67.0	94.4	3.8	1.5	1.3		
1024	1.851	3.573	0.0665	14.08	98.4	788.3	689.9	0.42	125.6	2.86	0.029	30.6	53.8	97.7	4.9	1.5	1.6		
1025	1.854	5.286	0.0411	21.03	102.7	369.7	267.0	0.39	55.6	1.71	0.066	32.0	128.4	81.4	2.5	1.5	1.0		
1026	1.841	5.312	0.0511	21.39	104.5	433.1	328.5	0.44	67.5	1.87	0.069	32.4	103.9	85.7	3.3	1.5	1.2		
1027	1.851	5.280	0.0622	21.36	108.2	535.8	427.6	0.44	85.9	2.12	0.069	32.9	84.9	92.4	4.4	1.5	1.5		
1028	1.853	5.291	0.0745	21.45	109.4	645.7	536.3	0.43	105.4	2.40	0.069	33.1	71.0	98.4	5.6	1.5	1.9		
1029	1.862	5.260	0.0861	21.30	110.9	752.8	641.8	0.39	124.1	2.67	0.069	33.4	61.0	102.7	6.7	1.5	2.3		
1030	1.849	5.280	0.0949	21.60	112.1	816.5	704.3	0.41	129.8	2.83	0.072	34.1	55.6	103.7	7.5	1.5	2.6		
1031	2.309	3.645	0.0237	11.98	113.5	347.2	233.7	0.41	42.4	1.60	0.019	28.6	153.7	80.8	1.2	1.5	0		
1032	2.339	3.549	0.0333	11.53	113.8	450.9	337.1	0.75	87.4	1.87	0.017	28.1	106.4	90.1	1.8	1.5	1.45		
1033	2.314	3.686	0.0458	12.09	113.3	574.5	461.1	0.60	96.5	2.19	0.019	28.6	80.5	94.9	2.6	1.5	1.6		
1034	2.329	3.646	0.0544	11.90	114.1	683.9	569.9	0.51	118.2	2.47	0.018	28.1	67.1	99.3	3.3	1.5	1.8		
1035	2.347	3.538	0.0630	11.46	114.0	788.5	674.4	0.40	120.6	2.74	0.017	28.7	56.2	99.9	3.8	1.5	2.0		
1036	2.731	5.115	0.0458	14.32	116.2	435.9	319.6	0.37	62.0	1.82	0.026	28.3	111.7	89.6	2.1	1.5	2.0		
1037	2.730	5.098	0.0667	14.29	116.6	612.3	495.8	0.33	93.4	2.27	0.026	28.8	76.5	97.6	3.3	1.5	2.5		
1038	2.731	4.989	0.0816	14.00	117.2	751.7	634.6	0.32	109.5	2.63	0.026	29.5	61.1	101.8	4.3	1.5	3.0		
1039	2.731	5.160	0.0895	14.49	117.5	791.0	673.5	0.30	110.9	2.72	0.028	29.7	57.7	102.4	4.7	1.5	3.3		

ライナ ; # 07-1, タワー - 54 φ, 分流板 : 標準形

N _{0.}	P _i kg/cm ² abs	w _a kg/s	w _f kg/s	U _r m/s	t ₁ ℃	t ₂ ℃	ΔT deg K	δt deg K	σ deg K	T ₂ /T ₁ K/K	4P/P ₁	φ	n	η _b %	L _b kcal/m ³ atm	P _f kg/cm ² G	M	
通風																		
"	1.204	3.827	0	18.87	29.2	28.7	—	—	1.0	0.074	35.7	—	—	—	—	—	—	
"	1.161	3.257	0	17.18	38.7	38.5	—	—	1.0	0.057	34.3	—	—	—	—	—	—	
"	1.130	2.802	0	15.36	42.4	41.9	—	—	1.0	0.043	33.2	—	—	—	—	—	—	
"	1.106	2.395	0	13.51	44.7	44.2	—	—	1.0	0.033	32.6	—	—	—	—	—	—	
"	1.088	2.042	0	11.76	46.0	45.5	—	—	1.0	0.024	32.1	—	—	—	—	—	—	
"	1.073	1.702	0	9.97	47.2	46.4	—	—	1.0	0.017	31.9	—	—	—	—	—	—	
"	1.060	1.312	0	7.78	46.9	46.3	—	—	1.0	0.011	31.9	—	—	—	—	—	—	
"	1.055	1.140	0	6.80	46.9	46.1	—	—	1.0	0.008	31.4	—	—	—	—	—	—	
"	1.051	1.265	0	8.09	69.5	67.0	—	—	1.0	0.011	31.9	—	—	—	—	—	—	
1040	1.110	2.271	0.0123	13.12	53.3	258.4	205.1	0.78	—	1.63	0.031	33.5	184.1	81.4	$\times 10^7$	7	0	
1041	1.109	2.272	0.0194	13.23	55.9	334.2	278.3	0.69	103.5	1.85	0.031	33.9	117.5	73.0	1.3	1.8	10	0
1042	1.116	2.236	0.0237	13.11	60.1	443.6	383.4	0.55	112.5	2.15	0.031	34.8	94.1	90.2	2.7	15	0	0.04
1043	1.121	2.242	0.0340	13.16	62.1	577.8	515.7	0.58	134.3	2.54	0.031	34.6	66.0	87.0	3.7	15	0.08	?
1044	1.123	2.233	0.0386	13.15	64.0	646.8	582.8	0.58	162.3	2.73	0.031	35.2	57.8	87.0	4.2	15	0.08	?
1045	1.128	2.220	0.0453	13.10	65.8	715.2	649.4	0.53	176.7	2.92	0.032	35.8	49.0	83.3	4.7	15	0	?
1046	1.443	2.836	0.0193	13.32	71.9	291.1	219.2	0.44	56.8	1.64	0.029	32.7	147.1	65.8	1.2	10	0	0
1047	1.447	2.819	0.0236	13.29	74.2	368.5	294.3	0.47	79.7	1.85	0.030	33.4	119.3	83.1	1.9	15	0	0.05
1048	1.449	2.804	0.0349	13.27	76.3	512.6	436.4	0.65	123.9	2.25	0.030	34.7	80.4	88.5	3.0	15	0.05	?
1049	1.438	2.802	0.0392	13.44	78.2	558.4	480.2	0.57	127.8	2.37	0.031	34.5	71.3	87.2	3.3	15	0.05	?
1050	1.446	2.778	0.0461	13.31	79.8	628.6	548.8	0.57	146.9	2.56	0.031	35.7	60.3	85.2	3.8	15	0.05	?
1051	1.453	2.816	0.0527	13.50	81.6	705.6	624.0	0.53	159.5	2.76	0.031	34.4	53.4	86.7	4.4	15	0.05	?
1052	1.457	3.873	0.0241	18.84	87.9	271.4	183.5	0.39	43.0	1.51	0.060	34.8	160.3	61.0	1.4	15	0	0
1053	1.459	3.835	0.0382	18.74	90.0	422.0	332.0	0.54	75.6	1.91	0.059	35.3	100.5	83.4	3.1	15	0.05	0.6

N. No.	P_1 kg/cm ² abs	w_a kg/s	w_f kg/s	U_r m/s	t_1 ℃	t_2 ℃	ΔT deg K	δ_t	σ deg K	T_2/T_1 K/K	$\Delta P/P_1$	ϕ	n	η_b %	L_b kcal/m ³ h atm	P_f kg/cm ² G	M
1054	1.458	3.852	0.053	18.95	92.2	556.2	464.0	0.53	107.5	2.27	0.062	36.1	71.0	84.2	4.4	1.5	0.85
1055	1.458	3.811	0.062	18.82	93.7	638.7	544.9	0.58	121.7	2.49	0.062	36.8	62.3	87.7	5.2	1.5	1.0
1056	1.447	3.869	0.066	19.41	96.6	725.4	628.8	0.52	124.8	2.70	0.065	36.5	56.4	92.7	6.2	1.5	1.2
1057	1.453	3.852	0.071	19.29	97.7	829.7	732.0	0.46	124.6	2.97	0.065	37.1	48.7	94.5	7.2	1.5	1.5
1058	1.843	3.278	0.028	12.30	79.4	366.2	286.9	0.61	63.5	1.81	0.024	32.6	132.0	89.0	1.7	1.5	0
1059	1.838	3.312	0.033	12.58	82.4	442.4	360.0	0.50	89.5	2.01	0.026	33.7	102.6	92.2	2.3	1.5	?
1060	1.862	3.237	0.040	12.22	84.8	591.7	506.9	0.57	101.8	2.42	0.025	34.6	71.8	92.9	3.2	1.5	1.1
1061	1.850	3.251	0.057	12.43	87.3	703.9	616.6	0.52	123.5	2.71	0.027	36.1	58.4	93.3	4.0	1.5	1.3
1062	1.845	3.279	0.068	12.67	90.0	814.3	724.3	0.50	132.0	3.00	0.027	35.0	50.6	96.6	4.8	1.5	1.5
1063	1.830	5.059	0.045	19.99	95.2	385.0	289.9	0.54	—	1.79	0.069	36.5	119.1	84.0	2.7	1.5	1.0
1064	1.845	5.006	0.050	19.81	98.8	480.7	381.9	0.56	75.6	2.03	0.066	35.9	94.3	90.8	3.7	1.5	1.2
1065	1.860	4.967	0.064	19.59	100.5	563.2	462.7	0.56	88.7	2.24	0.065	36.1	78.5	92.8	4.4	1.5	1.0
1066	1.826	5.071	0.076	20.52	103.3	688.7	585.4	0.49	104.0	2.56	0.073	37.2	65.4	99.3	5.9	1.5	1.9
1067	1.828	5.015	0.094	20.37	105.0	810.5	705.5	0.45	118.0	2.87	0.073	38.2	54.8	102.1	7.2	1.5	2.4
1068	2.319	3.319	0.021	10.67	106.6	371.1	264.5	0.45	53.0	1.70	0.017	32.1	143.9	90.0	1.3	1.5	0
1069	2.340	3.248	0.033	10.37	107.2	497.4	390.2	0.60	100.3	2.03	0.016	31.8	97.5	95.7	1.9	1.5	?
1070	2.329	3.284	0.042	10.54	107.6	565.3	457.7	0.66	109.7	2.20	0.017	32.9	77.7	90.5	2.3	1.5	1.55
1071	2.343	3.243	0.054	10.34	107.6	672.8	565.2	0.56	123.1	2.49	0.016	32.7	63.2	92.3	2.8	1.5	1.7
1072	2.331	3.320	0.061	10.67	108.4	773.6	665.2	0.53	126.2	2.74	0.017	32.9	55.4	96.4	3.5	1.5	1.9
1073	2.724	4.721	0.044	13.05	110.6	484.3	373.7	0.49	85.9	1.97	0.023	39.8	101.7	95.6	2.3	1.5	2.0
1074	2.728	4.686	0.065	12.97	111.5	695.0	583.5	0.46	97.3	2.52	0.024	31.2	68.4	103.4	3.7	1.5	2.5
1075	2.726	4.766	0.088	13.24	112.4	833.3	721.0	0.44	112.4	2.87	0.025	31.6	56.9	108.2	4.7	1.5	3.0

○1ナ; #07-2, タワーナ 54°, 分流板; 鈍頭形

N- No.	P_i kg/cm ² abs	w_a kg/s	w_f kg/s	U_r m/s	t_i °C	t_2 °C	ΔT deg K	δ_t	σ deg K	T_2/T_1 K/K	$\Delta P/P_1$	ϕ	n	η_b %	L_b kcals/m ³ h atm	P_f kg/cm ² G	M
通風	1.165	3.687	0	19.54	41.5	40.7	—	—	—	1.0	0.069	32.8	—	—	—	—	—
"	1.212	3.992	0	23.60	91.8	92.0	—	—	—	1.0	0.090	33.6	—	—	—	—	—
"	1.151	3.222	0	20.15	93.4	92.0	—	—	—	1.0	0.062	31.9	—	—	—	—	—
"	1.154	3.244	0	20.20	92.7	95.1	—	—	—	1.0	0.062	31.8	—	—	—	—	—
"	1.098	2.413	0	15.80	92.9	91.6	—	—	—	1.0	0.032	26.5	—	—	—	—	—
"	1.076	1.881	0	12.54	92.2	90.7	—	—	—	1.0	0.020	25.9	—	—	—	—	—
"	1.067	1.611	0	10.81	91.5	89.4	—	—	—	1.0	0.014	26.0	—	—	—	—	—
"	1.061	1.410	0	9.49	90.7	91.1	—	—	—	1.0	0.011	25.5	—	—	—	—	—
"	1.055	1.153	0	7.78	89.5	87.6	—	—	—	1.0	0.008	25.4	—	—	—	—	—
"	1.108	2.611	0	16.93	92.6	95.0	—	—	—	1.0	0.037	26.8	—	—	—	—	—
"	1.136	2.984	0	18.94	93.9	93.3	—	—	—	1.0	0.053	31.3	—	—	—	—	—
"	1.165	3.410	0	21.17	95.2	97.1	—	—	—	1.0	0.068	32.2	—	—	—	—	—
"	1.128	2.854	0	18.33	95.7	96.0	—	—	—	1.0	0.049	30.8	—	—	—	—	—
1076	2.731	5.470	0.0464	13.18	62.1	372.7	310.7	0.58	88.3	1.93	0.026	28.4	118.0×10^7	87.3	2.1	1.5	2.0
1077	2.732	5.338	0.0670	13.06	67.3	523.5	456.2	0.67	126.8	2.34	0.026	30.2	79.6	91.6	3.2	15	2.5
1078	2.736	5.436	0.0795	13.47	72.3	620.3	548.0	0.55	139.6	2.59	0.028	30.9	68.4	95.8	3.9	15	3.0
1079	2.737	5.336	0.0909	13.37	76.2	734.9	658.7	0.62	150.1	2.89	0.029	32.8	58.6	100.3	4.7	15	3.5
1080	2.732	5.287	0.0672	13.42	80.1	515.8	435.7	0.44	98.9	2.23	0.027	30.0	78.7	86.5	3.0	0	3.5
1081	2.734	5.252	0.0809	13.42	82.8	650.4	567.6	0.44	124.4	2.60	0.027	31.0	65.0	94.8	3.9	0	4.0
1082	2.734	5.492	0.0938	14.19	86.6	747.8	661.1	0.42	140.9	2.84	0.030	30.8	58.5	100.7	4.9	0	4.5
1083	2.325	3.978	0.0527	12.14	88.2	581.1	492.9	0.49	108.5	2.36	0.022	31.2	75.4	94.4	3.0	15	1.7
1084	2.306	4.062	0.0662	12.53	89.3	687.8	598.5	0.56	132.7	2.65	0.024	31.7	61.4	94.7	3.8	15	2.0
1085	2.299	4.121	0.0756	12.82	91.2	767.3	676.0	0.52	143.6	2.86	0.025	32.0	54.5	96.2	4.4	15	2.3

④ 1 + ; # 07-3 , 27-5 ; 54 φ, 分流板; 鈍頭形

N. O.	P_1 kg/cm ² abs	w_a kg/s	w_f kg/s	U_r m/s	t_1 ℃	t_2 ℃	ΔT deg K	δ_t	σ deg K	T_2/T_1 K/K	$\Delta P/P_1$	ϕ	n	η_b %	L_b kcal/m ³ atm	P_f kg/cm ² G	P	M
1086	2.697	5.469	0.0531	12.98	53.0	431.2	378.2	0.57	—	2.16	0.027	29.9	102.9	97.0	$\times 10^7$ 2.7	1.5	2.0	
1087	2.699	5.470	0.0748	13.35	62.4	566.7	504.3	0.49	—	2.50	0.030	32.3	73.2	94.0	3.7	1.5	2.5	
1088	2.695	5.496	0.0896	13.67	68.3	649.2	581.0	0.42	—	2.70	0.031	32.6	61.3	92.1	4.3	1.5	3.0	
1089	2.698	5.375	0.1017	13.54	73.0	782.7	709.7	0.36	—	3.05	0.030	32.3	52.8	98.7	5.2	1.5	3.5	
1090	2.287	4.058	0.0298	12.31	80.2	338.8	258.6	0.47	—	1.73	0.023	30.5	136.1	78.7	1.4	1.5	0	
1091	2.283	4.035	0.0416	12.51	87.3	478.5	391.2	0.53	68.9	2.09	0.023	30.9	96.9	95.4	2.4	1.5	1.45	
1092	2.295	3.987	0.0493	12.34	88.8	563.9	475.1	0.41	76.3	2.31	0.023	31.9	80.9	98.0	3.0	1.5	1.55	
1093	2.296	3.966	0.0574	12.33	90.6	634.2	543.6	0.35	78.8	2.50	0.023	31.4	69.1	96.9	3.4	1.5	1.7	
1094	2.280	4.109	0.0662	12.94	92.5	703.0	610.5	0.26	90.4	2.67	0.025	30.8	62.1	98.7	4.0	1.5	1.9	
1095	2.280	3.978	0.0742	12.58	94.2	762.8	668.7	0.24	91.0	2.82	0.025	33.2	53.6	94.3	4.3	1.5	2.1	
通風																		
"	1.028	1.323	0	7.42	20.2	20.9	—	—	—	1.0	0.009	28.5	—	—	—	—	—	
"	1.091	2.696	0	18.18	101.5	99.3	—	—	—	1.0	0.045	29.3	—	—	—	—	—	
"	1.133	3.288	0	21.42	102.9	100.6	—	—	—	1.0	0.070	32.8	—	—	—	—	—	
"	1.173	3.774	0	23.83	104.1	101.9	—	—	—	1.0	0.091	34.5	—	—	—	—	—	
"	1.096	2.740	0	18.50	103.9	101.4	—	—	—	1.0	0.050	31.6	—	—	—	—	—	
"	1.068	2.273	0	15.75	103.6	101.0	—	—	—	1.0	0.033	28.7	—	—	—	—	—	
"	1.037	1.482	0	10.53	102.1	98.6	—	—	—	1.0	0.015	28.5	—	—	—	—	—	
"	1.030	1.235	0	8.82	101.1	97.7	—	—	—	1.0	0.010	28.5	—	—	—	—	—	

31 ナ; # 07-4, スワーヴ; 54° ϕ , 分流板; 鈍頭形

N O.	P_i kg/cm ² abs	w_a kg/s	w_f kg/s	U_r m/s	t_1 °C	t_2 °C	ΔT deg K	δ_t deg K	σ K/K	T_2/T_1	$\Delta P/P_i$	ϕ	n	η_b %	L_b kcal/m ³ heatm	P_f kg/cm ² G	M
1096	2.729	5.161	0.0545	12.29	57.8	470.9	413.1	0.49	76.5	2.25	0.026	32.4	94.7	98.0	2.7×10^7	1.5	2.0
1097	2.727	5.310	0.0740	12.95	65.6	593.8	528.2	0.49	103.8	2.56	0.029	33.2	71.7	96.7	3.7	1.5	2.5
1098	2.726	5.226	0.0880	12.98	71.9	688.4	616.5	0.48	126.6	2.79	0.029	34.4	59.4	95.0	4.3	1.5	3.0
1099	2.334	3.890	0.0300	11.44	76.3	358.8	282.6	0.43	—	1.81	0.021	31.5	129.6	85.3	1.5	1.5	0
1100	2.322	3.902	0.0423	11.64	79.4	491.0	411.6	0.55	86.0	2.17	0.022	33.0	92.7	95.4	2.4	1.5	1.45
1101	2.318	3.931	0.0487	11.83	82.2	555.5	473.3	0.42	91.2	2.33	0.022	32.5	80.7	97.1	2.9	1.5	1.55
1102	2.333	3.867	0.0558	11.63	84.3	627.9	543.7	0.47	104.5	2.52	0.022	33.2	69.3	96.8	3.3	1.5	1.7
1103	2.330	3.897	0.0644	11.82	86.8	700.6	613.8	0.47	122.1	2.71	0.023	33.4	60.6	96.6	3.8	1.5	1.9
1104	1.119	2.374	0.0265	14.97	86.5	433.1	346.6	0.60	63.4	1.96	0.035	32.2	89.6	78.2	2.6	1.0	0
1105	1.120	2.322	0.0316	14.68	87.3	568.6	481.3	0.41	72.9	2.34	0.034	32.7	73.6	90.7	3.6	1.5	0
1106	1.124	2.322	0.0376	14.63	87.9	680.6	592.7	0.33	111.9	2.64	0.034	32.9	61.7	95.1	4.5	1.5	0.03
1107	1.128	2.308	0.0428	14.52	88.3	766.4	678.1	0.24	106.8	2.88	0.035	34.1	54.0	96.6	5.1	1.5	0.1
1108	1.449	3.107	0.0310	15.35	91.4	427.3	335.8	0.45	56.2	1.92	0.038	33.4	100.2	84.4	2.5	1.5	0
1109	1.450	3.089	0.0369	15.30	92.6	518.4	425.8	0.64	93.8	2.16	0.038	34.0	83.7	90.4	3.2	1.5	0.04
1110	1.435	3.161	0.0422	15.85	93.6	592.7	499.2	0.54	90.4	2.36	0.040	33.3	74.8	95.7	4.0	1.5	0.1
1111	1.422	3.151	0.0518	16.01	95.0	700.3	605.3	0.47	100.9	2.64	0.043	35.2	60.9	96.0	4.9	1.5	0.7
1112	1.425	3.132	0.0559	15.95	96.2	748.8	652.6	0.49	109.8	2.77	0.043	35.4	56.0	95.9	5.3	1.5	0.8
通風	1.170	3.824	0	19.67	33.5	—	—	—	—	1.0	0.078	35.5	—	—	—	—	—
"	1.166	3.428	0	21.37	97.0	—	—	—	—	1.0	0.074	34.2	—	—	—	—	—
"	1.105	2.548	0	16.79	98.0	97.1	—	—	—	1.0	0.043	32.1	—	—	—	—	—
"	1.134	3.013	0	19.34	97.7	97.1	—	—	—	1.0	0.058	33.3	—	—	—	—	—
"	1.089	2.230	0	14.91	97.9	97.2	—	—	—	1.0	0.033	32.0	—	—	—	—	—
"	1.063	1.631	0	11.13	96.5	95.8	—	—	—	1.0	0.018	30.1	—	—	—	—	—
"	1.075	1.960	0	13.25	96.9	96.3	—	—	—	1.0	0.025	29.6	—	—	—	—	—
"	1.052	1.278	0	8.78	95.3	94.6	—	—	—	1.0	0.011	29.8	—	—	—	—	—

ライナ；#07-4, スワード；54°, 分流板；短縮形

N.O.	P_1 kg/cm ² abs	w_a kg/s	w_f kg/s	U_r m/s	t_1 °C	t_2 °C	ΔT deg K	δ_t	σ deg K	T_2/T_1 K/K	$\Delta P/P_1$	ϕ	n	η_b %	L_b kcal/m ³ h atm	P_f kg/cm ² G	P	M
1113	1.118	2.367	0.0279	13.25	45.6	362.2	316.6	0.52	60.0	1.99	0.035	36.9	85.0	63.8	2.2 × 10 ⁷	10	0	
1114	1.120	2.358	0.0322	13.42	51.5	486.6	435.1	0.49	83.1	2.34	0.036	36.8	73.2	80.4	3.2	15	0	
1115	1.128	2.346	0.0403	13.32	53.3	646.8	593.5	0.35	132.9	2.82	0.036	38.2	58.2	89.1	4.5	15	0.4	
1116	1.132	2.331	0.0462	13.30	55.9	769.1	713.2	0.23	113.4	3.17	0.036	38.7	50.5	94.5	5.4	15	0.3	
1117	1.437	3.142	0.0312	14.41	62.4	340.9	278.4	0.32	57.4	1.83	0.041	38.4	100.7	63.6	1.9	15	0	
1118	1.462	3.160	0.0406	14.37	65.6	495.3	429.7	0.45	105.9	2.27	0.039	37.0	78.0	84.6	3.3	15	0.05	
1119	1.444	3.176	0.0452	14.74	68.3	560.0	491.7	0.29	87.4	2.44	0.041	37.3	70.2	88.0	3.9	15	0.6	
1120	1.448	3.319	0.0518	14.48	70.7	665.1	594.4	0.34	107.8	2.73	0.043	35.4	64.1	98.4	4.9	15	0.7	
1121	1.441	3.171	0.0588	14.96	73.1	747.8	674.7	0.33	121.9	2.95	0.043	38.5	53.9	95.2	5.5	15	0.8	
1122	2.334	3.841	0.0415	11.38	79.1	499.7	420.7	0.34	79.1	2.19	0.023	36.1	92.6	98.0	2.5	15	1.45	
1123	2.317	3.822	0.0510	11.50	82.1	609.3	527.1	0.29	93.8	2.48	0.024	36.3	74.8	100.8	3.1	15	1.55	
1124	2.326	3.849	0.0577	11.60	84.2	677.1	592.9	0.33	107.4	2.66	0.024	36.4	66.7	102.0	3.6	15	1.7	
1125	2.734	5.352	0.0531	13.90	88.7	497.2	409.3	0.29	70.8	2.13	0.033	35.4	100.7	103.8	2.8	15	2.0	
1126	2.734	5.365	0.0771	14.06	91.8	668.3	576.4	0.34	108.3	2.58	0.035	36.8	69.5	103.5	4.1	15	2.5	
1127	2.731	5.355	0.0934	14.14	94.2	791.6	697.4	0.43	135.4	2.90	0.035	36.7	57.4	105.2	5.1	15	3.0	
通風		1.204	4.049	0	20.61	39.2	39.1	—	—	1.0	0.092	38.9	—	—	—	—	—	
"	1.119	2.815	0	15.61	42.9	42.6	—	—	—	1.0	0.048	35.9	—	—	—	—	—	
"	1.175	3.414	0	20.90	93.1	92.7	—	—	—	1.0	0.077	37.1	—	—	—	—	—	
"	1.137	2.937	0	18.60	93.7	93.2	—	—	—	1.0	0.060	36.2	—	—	—	—	—	
"	1.113	2.551	0	16.51	93.9	93.4	—	—	—	1.0	0.046	35.7	—	—	—	—	—	
"	1.092	2.162	0	14.25	93.6	93.0	—	—	—	1.0	0.034	35.4	—	—	—	—	—	
"	1.074	1.754	0	11.71	92.2	91.7	—	—	—	1.0	0.023	35.0	—	—	—	—	—	
"	1.061	1.400	0	9.44	91.3	91.1	—	—	—	1.0	0.015	34.5	—	—	—	—	—	
"	1.056	1.236	0	8.36	90.5	90.2	—	—	—	1.0	0.012	34.4	—	—	—	—	—	

ライナ；#07-4，スワード；52°，分流板；鈍頭形

N.O.	P_1 kg/cm ² abs	w_a kg/s	w_f kg/s	U_r m/s	t_1 °C	t_2 °C	ΔT deg K	δ_t	σ deg K	T_2/T_1 K/K	$\Delta P/P_1$	ϕ	n	η_b %	L_b kcal/m ³ h atm	P_f kg/cm ² G	P	M
通風	1.172	3.651	0	19.77	50.0	49.8	—	—	1.0	0.074	35.2	—	—	—	—	—	—	
"	1.147	3.116	0	19.11	85.0	85.1	—	—	1.0	0.059	32.9	—	—	—	—	—	—	
"	1.114	2.600	0	16.45	85.7	85.3	—	—	1.0	0.042	32.1	—	—	—	—	—	—	
"	1.097	2.258	0	14.51	86.0	85.4	—	—	1.0	0.032	31.6	—	—	—	—	—	—	
"	1.081	1.906	0	12.40	85.4	84.9	—	—	1.0	0.024	31.5	—	—	—	—	—	—	
"	1.067	1.520	0	10.00	84.3	83.7	—	—	1.0	0.015	39.7	—	—	—	—	—	—	
"	1.073	1.714	0	11.21	84.5	84.0	—	—	1.0	0.018	30.1	—	—	—	—	—	—	
"	1.063	1.384	0	9.11	83.5	82.8	—	—	1.0	0.012	39.7	—	—	—	—	—	—	
1128	1.108	2.198	0.0269	12.74	53.9	465.1	411.1	0.68	90.0	2.26	0.028	33.0	81.7	84.1	$\times 10^7$	10	0	
1129	1.112	2.163	0.0317	12.56	55.9	606.0	550.1	0.54	100.1	2.67	0.029	34.2	68.2	95.3	3.8	15	0	
1130	1.121	2.160	0.0414	12.54	58.2	781.6	723.3	0.58	136.5	3.18	0.029	35.2	52.2	98.4	5.1	15	0.04	
1131	1.118	2.187	0.0369	12.76	59.3	706.1	646.8	0.54	123.5	2.95	0.029	33.6	59.3	98.9	4.6	15	0.02	
1132	2.328	3.757	0.0300	10.84	69.0	369.9	300.9	0.46	50.0	1.88	0.019	31.6	125.3	89.3	1.6	15	0	
1133	2.340	3.690	0.0414	10.68	72.0	509.0	437.0	0.51	90.0	2.27	0.019	33.5	89.1	97.9	2.4	15	1.45	
1134	2.345	3.739	0.0504	10.90	74.9	603.0	528.0	0.49	102.0	2.52	0.019	32.3	74.2	99.9	3.0	15	1.55	
1135	2.731	5.150	0.0558	13.12	81.4	517.9	436.6	0.37	75.2	2.23	0.026	30.2	92.2	101.5	2.9	15	2.0	
1136	2.733	5.147	0.0789	13.22	84.5	680.4	595.8	0.32	102.9	2.67	0.028	33.2	65.2	100.3	4.1	15	2.5	

N _{O.}	P ₁ kg/cm ² abs	w _a kg/s	w _f kg/s	U _r m/s	t ₁ °C	t ₂ °C	ΔT deg K	δ _t	σ deg K	T ₂ /T ₁ K/K	ΔP/P ₁	φ	n	η _b %	L _b kcal/m ³ hatm	P _f kg/cm ² G	M
通風	1.862	1.552	0	5.18	43.7	42.7	—	—	—	1.0	0.004	29.4	—	—	—	—	—
"	1.856	1.883	0	6.39	47.6	46.7	—	—	—	1.0	0.006	29.2	—	—	—	—	—
"	1.831	2.287	0	7.96	51.5	50.9	—	—	—	1.0	0.010	30.0	—	—	—	—	—
"	1.866	2.681	0	9.28	55.8	55.4	—	—	—	1.0	0.014	31.6	—	—	—	—	—
"	1.839	3.117	0	11.11	60.6	60.3	—	—	—	1.0	0.021	31.9	—	—	—	—	—
"	1.843	3.705	0	13.38	65.7	65.5	—	—	—	1.0	0.030	32.5	—	—	—	—	—
"	1.843	4.214	0	15.42	70.3	70.4	—	—	—	1.0	0.041	33.6	—	—	—	—	—
"	1.849	4.984	0	18.46	75.8	75.6	—	—	—	1.0	0.059	34.8	—	—	—	—	—
"	1.847	5.545	0	20.83	80.3	80.1	—	—	—	1.0	0.077	35.9	—	—	—	—	—
"	1.861	3.178	0	12.12	88.4	87.8	—	—	—	1.0	0.022	31.6	—	—	—	—	—
"	1.872	2.143	0	8.14	89.1	87.9	—	—	—	1.0	0.009	28.2	—	—	—	—	—
1137	1.848	1.977	0.0316	7.51	89.9	727.8	638.0	0.41	109.1	2.76	0.009	30.6	62.5	102.9	2×10^7	1.5	0
1138	1.861	1.914	0.0258	7.34	90.2	611.1	520.8	0.39	82.2	2.43	0.008	31.5	74.4	98.4	1.9	10	0
1139	1.859	1.928	0.0208	7.41	90.5	492.4	401.9	0.39	62.3	2.11	0.008	30.4	92.6	93.1	1.5	7	0
1140	1.848	2.983	0.0299	11.61	93.5	476.1	382.6	0.48	69.2	2.04	0.021	32.6	99.7	95.6	2.2	15	0
1141	1.861	2.950	0.0363	11.45	94.6	554.5	459.8	0.56	92.0	2.25	0.020	32.8	81.1	94.5	2.6	15	0.05
1142	1.868	2.953	0.0475	11.45	95.8	689.8	593.9	0.53	112.6	2.61	0.021	33.9	62.1	95.2	3.4	15	1.05
1143	1.868	2.972	0.0584	11.56	96.9	806.3	709.4	0.48	137.2	2.92	0.022	34.3	50.9	94.8	4.2	15	1.2
1144	1.857	5.071	0.0482	20.02	100.2	435.2	334.9	0.66	70.6	1.90	0.066	35.2	105.1	88.1	3.2	15	1.0
1145	1.864	5.006	0.0622	19.79	102.3	536.5	434.2	0.63	92.8	2.16	0.066	36.1	80.5	88.8	4.2	15	1.2
1146	1.846	5.067	0.0766	20.33	103.9	634.8	530.9	0.55	107.4	2.41	0.071	37.0	66.2	90.6	5.3	15	1.5
1147	1.868	4.995	0.0903	19.88	105.5	761.0	655.5	0.37	119.6	2.73	0.068	37.4	55.3	95.2	6.5	15	1.9

ライナ；#07-10，スワーラ；54°，分流板；鈍頭形

N ^o .	P_1 kg/cm ² abs	w_a kg/s	w_f kg/s	U_r m/s	t_1 ℃	t_2 ℃	ΔT deg K	δ_t	σ deg K	T_2/T_1 K/K	$\Delta P/P_1$	ϕ	n	η_b %	L_b kcal/m ³ atm	P_f kg/cm ² G	
																P	M
通風	1.137	3.508	0	18.05	24.9	24.7	—	—	—	1.0	0.059	30.9	—	—	—	—	—
"	1.115	3.076	0	16.51	31.6	31.4	—	—	—	1.0	0.047	29.8	—	—	—	—	—
"	1.090	2.541	0	14.08	34.5	34.4	—	—	—	1.0	0.032	28.9	—	—	—	—	—
"	1.070	2.005	0	11.38	36.2	35.8	—	—	—	1.0	0.020	27.9	—	—	—	—	—
"	1.056	1.593	0	9.23	38.7	38.3	—	—	—	1.0	0.012	24.7	—	—	—	—	—
"	1.049	1.268	0	7.41	38.8	38.4	—	—	—	1.0	0.008	24.7	—	—	—	—	—
"	1.165	3.567	0	22.03	93.3	93.2	—	—	—	1.0	0.072	21.0	—	—	—	—	—
"	1.097	2.483	0	16.27	93.1	92.8	—	—	—	1.0	0.036	28.7	—	—	—	—	—
"	1.080	2.119	0	14.10	93.0	92.5	—	—	—	1.0	0.027	28.2	—	—	—	—	—
"	1.066	1.764	0	11.84	91.3	90.8	—	—	—	1.0	0.018	26.7	—	—	—	—	—
"	1.057	1.503	0	10.15	90.4	90.1	—	—	—	1.0	0.012	24.1	—	—	—	—	—
"	1.048	1.163	0	7.88	88.9	88.6	—	—	—	1.0	0.007	24.6	—	—	—	—	—
1148	1.083	2.017	0.0236	11.58	43.7	401.0	357.3	0.63	79.5	2.13	0.020	26.8	85.4	75.6	$\times 10^7$	7	0
1149	1.086	2.049	0.0274	11.82	46.2	501.3	455.1	0.62	99.4	2.43	0.021	27.5	74.6	85.2	3.0	1.0	0
1150	1.091	2.026	0.0325	11.73	48.6	617.1	568.5	0.48	111.3	2.77	0.021	28.5	62.2	90.3	3.8	1.5	0
1151	1.095	2.007	0.0362	11.73	52.8	677.2	624.4	0.53	140.2	2.92	0.021	29.2	55.3	88.9	4.1	1.5	?
1152	1.440	2.431	0.0258	10.98	58.2	410.7	352.5	0.40	72.0	2.06	0.019	30.4	94.4	82.4	2.1	1.0	0
1153	1.445	2.441	0.0312	11.07	60.6	524.0	463.4	0.44	93.4	2.39	0.019	29.4	78.4	91.4	2.8	1.5	0
1154	1.450	2.415	0.0354	11.00	63.2	581.3	518.1	0.45	107.3	2.54	0.020	31.4	68.2	89.6	3.1	1.5	0.04
1155	1.439	2.434	0.0417	11.23	65.0	661.3	596.3	0.46	127.5	2.76	0.021	31.7	58.3	89.3	3.6	1.5	0.08
1156	1.829	2.914	0.0310	10.69	68.8	445.7	376.9	0.45	72.7	2.10	0.017	28.9	94.2	88.4	2.1	1.5	0
1157	1.856	2.899	0.0402	10.56	71.0	555.3	484.4	0.51	108.0	2.41	0.017	30.2	72.3	88.5	2.7	1.5	0.95
1158	1.849	2.974	0.0444	10.93	73.1	594.2	521.1	0.44	112.3	2.51	0.019	31.2	67.0	88.8	3.0	1.5	1.0

N O.	P_1 kg/cm ² abs	w_a kg/s	w_f kg/s	U_r m/s	t_1 °C	ΔT deg K	δ_t	σ deg K	T_2/T_1 K/K	$\Delta P/P_1$	ϕ	n	η_b %	L_b kcal/m ³ h atm	P_f kg/cm ² G		
															P	M	
1159	1.846	4.782	0.0497	17.98	80.2	419.3	339.2	0.60	73.5	1.96	0.053	33.3	96.2	81.4	3.1×10^7	1.5	1.0
1160	1.853	4.768	0.0618	18.01	83.4	510.4	427.1	0.73	100.4	2.20	0.053	33.3	77.1	83.3	3.9	1.5	1.2
1161	1.858	4.738	0.0767	17.97	85.8	620.2	534.4	0.69	123.7	2.49	0.054	34.5	61.8	84.9	4.9	1.5	1.5
1162	1.731	4.248	0.0531	11.07	89.4	552.6	463.2	0.62	98.2	2.28	0.017	29.0	79.9	93.8	2.6	1.5	2.0
1163	1.732	4.323	0.0463	11.32	91.3	493.0	401.7	0.58	84.1	2.10	0.017	28.2	93.5	94.2	2.2	1.5	1.9
1164	1.730	4.312	0.0736	11.35	92.9	692.2	599.2	0.64	136.9	2.64	0.019	31.4	58.5	90.7	3.4	15	2.4

データ：#07-12，ズワーラ；54°φ，分流板；鋸頭形

N O.	P_1 kg/cm ² abs	w_a kg/s	w_f kg/s	U_r m/s	t_1 ℃	t_2 ℃	ΔT deg K	δ_t	σ	T_2/T_1	K/K	$\Delta P/P_1$	ϕ	n	η_b % kcal/m ³ h atm	P_f kg/cm ² G	M
通風	1.135	3.324	0	17.18	25.6	25.4	—	—	1.0	0.053	30.8	—	—	—	—	—	—
"	1.093	2.503	0	13.59	29.1	29.0	—	—	1.0	0.028	26.0	—	—	—	—	—	—
"	1.067	1.715	0	9.59	30.7	30.4	—	—	1.0	0.013	25.3	—	—	—	—	—	—
"	1.165	3.472	0	21.21	89.5	89.2	—	—	1.0	0.068	31.3	—	—	—	—	—	—
"	1.125	2.946	0	18.67	89.9	89.4	—	—	1.0	0.045	26.9	—	—	—	—	—	—
"	1.101	2.478	0	16.06	90.3	89.5	—	—	1.0	0.032	26.2	—	—	—	—	—	—
"	1.086	2.124	0	13.94	90.2	89.4	—	—	1.0	0.024	25.9	—	—	—	—	—	—
"	1.070	1.646	0	10.96	89.6	88.9	—	—	1.0	0.015	25.5	—	—	—	—	—	—
"	1.063	1.407	0	9.40	88.6	88.1	—	—	1.0	0.011	25.4	—	—	—	—	—	—
1165	1.094	2.085	0.0235	11.61	37.2	374.3	337.1	0.62	72.4	2.09	0.021	27.3	88.6	71.7	2×10^7	7	0
1165	1.098	2.056	0.0273	11.58	41.8	487.8	445.9	0.58	97.4	2.42	0.021	28.1	75.1	84.1	2.9	10	0
1167	1.102	2.046	0.0331	11.56	44.0	615.8	571.7	0.51	123.5	2.80	0.021	29.2	61.7	90.1	3.8	15	0
1168	1.106	(2.029)	0.0392	(13.68)	(46.7)	717.7	(671.0)	(0.55)	166.4	(3.10)	0.021	(24.9)	(51.8)	(82.6)	(4.1)	15	?
1169	1.459	(2.485)	0.0262	(11.48)	(70.0)	(385.1)	(315.1)	(0.61)	93.6	(1.92)	0.017	(26.0)	(94.9)	(72.7)	(1.8)	10	0
1170	1.449	2.576	0.0316	11.55	58.0	505.2	447.2	0.45	89.2	2.35	0.019	27.4	81.5	91.5	2.8	15	0
1171	1.443	2.584	0.0363	11.80	62.5	566.6	504.1	0.51	116.9	2.50	0.020	27.8	71.0	90.8	3.2	15	0.03
1172	1.461	2.549	0.0411	11.56	64.1	639.2	575.1	0.52	142.4	2.71	0.020	28.2	62.0	91.2	3.6	15	?
1173	1.467	2.554	0.0485	11.60	66.2	731.6	665.4	0.42	145.4	2.96	0.020	29.5	52.7	91.0	4.2	15	0.61
1174	1.864	3.098	0.0310	11.22	70.8	440.8	370.0	0.46	64.3	2.08	0.017	26.0	100.1	92.1	2.2	15	0
1175	1.881	3.069	0.0371	11.07	72.7	517.4	444.6	0.58	111.7	2.29	0.016	25.7	82.7	92.5	2.6	15	0.04
1176	1.871	3.130	0.0429	11.42	74.7	566.3	491.6	0.49	112.6	2.41	0.017	25.7	73.0	91.1	2.9	15	1.0
1177	1.873	3.087	0.0539	11.31	76.4	687.9	611.5	0.46	133.6	2.75	0.017	26.9	57.3	90.4	3.7	15	1.1
1178	1.881	3.068	0.0607	11.25	78.2	753.9	675.7	0.45	147.1	2.92	0.018	28.6	50.6	89.2	4.0	15	1.2
1179	2.743	4.607	0.0567	11.79	84.4	556.1	471.7	0.69	105.7	2.32	0.018	26.4	81.1	97.0	2.8	15	2.0
1180	2.741	4.526	0.0807	11.66	86.4	745.2	658.8	0.68	159.0	2.83	0.019	28.1	56.1	96.2	4.0	15	2.5
1181	2.742	4.484	0.0706	11.60	88.3	663.7	575.4	0.66	129.5	2.59	0.018	28.0	63.5	94.1	3.4	15	2.3

表1ナ; #07~4, タワーレイ; 54°φ, 分流板; 標準形

N.O.	P_1 kg/cm ² abs	w_a kg/s	w_f kg/s	U_r m/s	t_1 ℃	t_2 ℃	ΔT deg K	δ_t	σ	T_2/T_1 K/K	$\Delta P/P_1$	ϕ	n	η_b %	L_b kcal/m ³ h atm	P_f kg/cm ² G	P	M
通風	1.128	2.980	0	15.71	29.6	29.4	—	—	1.0	0.052	36.5	—	—	—	—	—	—	—
"	1.089	2.341	0	12.96	33.9	33.6	—	—	1.0	0.034	35.1	—	—	—	—	—	—	—
"	1.038	1.080	0	6.27	33.6	33.6	—	—	1.0	0.008	34.4	—	—	—	—	—	—	—
"	1.162	3.156	0	19.71	96.4	96.1	—	—	1.0	0.068	37.0	—	—	—	—	—	—	—
"	1.111	2.534	0	16.55	96.4	95.4	—	—	1.0	0.047	36.0	—	—	—	—	—	—	—
"	1.080	2.043	0	13.69	95.7	95.0	—	—	1.0	0.031	35.4	—	—	—	—	—	—	—
"	1.061	1.650	0	11.24	94.7	94.2	—	—	1.0	0.021	34.8	—	—	—	—	—	—	—
"	1.040	1.104	0	7.64	93.2	92.7	—	—	1.0	0.010	34.5	—	—	—	—	—	—	—
1182	1.066	1.543	0.0228	8.80	36.5	553.5	517.0	0.54	127.3	2.37	0.016	37.0	67.6	87.3	2×10^7	7	0	0
1183	1.069	1.528	0.0273	8.73	34.2	701.8	663.6	0.47	130.4	3.13	0.016	37.7	55.9	94.1	2.6×10^7	7	0	0
1184	1.093	1.979	0.0271	11.21	42.2	515.3	473.1	0.65	110.5	2.50	0.026	36.8	72.8	86.1	3.0	1.0	0	0
1185	1.099	1.951	0.0324	11.09	44.7	654.6	609.9	0.54	127.4	2.92	0.025	37.8	60.2	93.2	3.9	1.5	0	0
1186	1.106	1.935	0.0377	11.14	51.2	788.5	737.3	0.41	150.7	3.27	0.025	37.4	51.4	97.8	4.7	1.5	0.06	0
1187	1.450	3.050	0.0317	13.72	58.9	393.9	335.0	0.42	65.0	2.01	0.038	38.0	96.4	79.0	2.4	1.5	0	0
1188	1.445	3.147	0.0370	14.32	61.8	472.2	410.4	0.60	96.5	2.23	0.039	36.1	85.1	86.8	3.1	1.5	0.05	0
1189	1.449	3.120	0.0432	14.28	64.8	592.3	527.5	0.48	110.4	2.56	0.038	36.7	72.0	95.7	4.0	1.5	0.65	0
1190	1.450	3.122	0.0498	14.40	67.7	695.4	627.7	0.50	135.7	2.84	0.038	36.1	62.7	100.7	4.8	1.5	0.8	0
1191	1.443	3.121	0.0569	14.58	70.2	778.4	708.1	0.45	147.5	3.06	0.040	37.5	54.8	100.2	5.6	1.5	1.0	0
1192	1.862	4.179	0.0427	15.41	76.5	454.2	377.6	0.36	77.0	2.08	0.044	37.0	98.0	91.8	3.0	1.5	1.0	0
1193	1.838	4.268	0.0510	16.08	79.6	546.3	466.7	0.38	100.8	2.32	0.048	37.4	83.6	97.9	3.8	1.5	1.2	0
1194	1.861	4.190	0.0594	15.69	81.8	656.2	574.4	0.40	118.3	2.62	0.045	37.2	70.6	103.1	4.6	1.5	1.5	0
1195	1.849	4.196	0.0655	15.91	84.1	721.5	637.4	0.39	128.7	2.79	0.047	38.3	64.0	104.6	5.2	1.5	1.8	0
1196	1.840	4.256	0.0737	16.30	86.0	786.9	700.9	0.37	139.6	2.95	0.049	37.8	57.8	104.7	5.9	1.5	2.2	0

\bar{N}	P_i kg/cm ² abs	w_a kg/s	w_f kg/s	U_r m/s	t_1 °C	t_2 °C	ΔT deg K	δ_t	σ deg K	T_2/T_1 K/K	$\Delta P/P_i$	ϕ	n	η_b %	L_b kcal/m ³ h atm	P_f kg/cm ² G	M
1197	2.701	5.070	0.0470	13.44	91.5	483.5	392.0	0.42	80.0	2.08	0.030	34.3	107.8	105.2	$\times 10^7$	15	2.0
1198	2.695	5.369	0.0586	14.33	93.3	572.5	479.2	0.46	104.4	2.31	0.032	32.9	91.6	110.5	2.6	3.4	2.04
1199	2.703	5.266	0.0683	14.09	95.2	663.4	568.2	0.48	122.2	2.54	0.032	34.3	77.1	111.6	3.4	3.9	2.9
1200	2.700	5.295	0.0788	14.24	96.7	744.4	647.6	0.48	135.2	2.75	0.033	34.8	67.2	112.3	4.6	4.6	3.5

ライナ；#07-11, スワーブ；46°, 分流板；鈍頭形

N.O.	P_i kg/cm ² abs	w_a kg/s	w_f kg/s	U_r m/s	t_i °C	ΔT deg K	δ_t	σ deg K	T_e/T_i K/K	dP/P_i	ϕ	n	η_b %	L_b kcal/m ³ atm	P_f kg/cm ² G	P	M
通風																	
1. 184	3.843	0	21.05	57.2	57.2	—	—	1.0	0.076	32.5	—	—	—	—	—	—	—
" 1.121	2.992	0	17.57	62.1	62.0	—	—	1.0	0.049	30.5	—	—	—	—	—	—	—
" 1.079	2.329	0	14.32	64.6	64.2	—	—	1.0	0.028	26.4	—	—	—	—	—	—	—
" 1.048	1.573	0	9.96	64.7	64.3	—	—	1.0	0.013	25.7	—	—	—	—	—	—	—
1201	1.100	2.200	0.0214	13.41	68.3	382.7	314.4	0.48	58.6	1.92	0.025	27.2	102.6	78.1	$\times 10^7$	7	0
1202	1.105	2.184	0.0256	13.32	70.2	460.5	390.2	0.49	71.7	2.14	0.026	28.3	85.5	83.7	2.7	10	0
1203	1.110	2.170	0.0295	13.28	72.7	538.8	466.2	0.44	85.7	2.35	0.026	28.9	73.5	86.5	3.2	15	0
1204	1.114	2.158	0.0324	13.24	75.0	587.9	512.9	0.37	86.7	2.47	0.026	29.3	66.6	87.3	3.6	15	?
1205	1.122	2.155	0.0404	13.18	76.5	713.9	637.4	0.33	117.5	2.82	0.026	29.7	53.4	88.1	4.5	15	?
1206	1.128	2.137	0.0451	13.08	78.7	788.5	709.8	0.39	140.1	3.02	0.026	30.6	47.3	88.0	5.0	15	?
1207	2.319	3.479	0.0414	10.59	86.3	548.6	462.2	0.44	81.6	2.29	0.014	26.3	84.0	97.8	2.5	15	?
1208	2.315	3.519	0.0368	10.83	89.7	498.0	408.3	0.41	66.8	2.13	0.015	26.1	95.8	97.9	2.2	15	?
1209	2.290	3.631	0.0447	11.39	92.7	588.4	495.6	0.54	95.5	2.36	0.016	26.3	79.5	100.7	2.8	15	?
1210	2.699	5.017	0.0427	13.57	98.7	459.3	360.6	0.56	73.4	1.97	0.023	26.2	116.9	105.3	2.4	15	?
1211	2.698	5.201	0.0524	14.20	102.0	541.2	439.2	0.63	101.8	2.17	0.025	26.4	99.4	110.3	3.0	15	2.5
1212	2.698	5.126	0.0570	14.08	104.5	585.6	481.2	0.68	121.5	2.27	0.024	26.3	89.9	110.4	3.3	15	3.0
1213	2.698	5.046	0.0650	13.98	107.7	662.7	555.0	0.62	133.3	2.46	0.024	26.7	77.6	110.6	3.7	15	3.5
1214	2.673	6.609	0.0641	18.66	111.3	534.2	423.0	0.64	117.3	2.10	0.046	29.2	103.1	110.7	3.7	15	3.5
1215	2.672	6.562	0.0681	18.78	116.4	574.9	458.5	0.63	124.7	2.18	0.046	29.2	96.2	114.3	4.1	15	4.0
1216	2.676	6.432	0.0812	18.79	125.0	673.9	548.9	0.67	145.1	2.38	0.050	32.6	78.7	114.9	4.9	15	5.0

ライナ；#07-11，スワーラ；46φ，分流板；鈍頭形入口絞り

N.O.	P_1 kg/cm ² abs	w_a kg/s	w_f kg/s	U_r m/s	t_1 ℃	t_2 ℃	ΔT deg K	δ_t deg K	σ deg K	T_2/T_1 K/K	dP/P_1	ϕ	η	η_b %	P_f kg/cm ² G		
															P	M	
1217	1.109	2.270	0.0215	13.34	58.8	354.8	296.0	0.42	56.1	1.89	—	—	105.6	76.9	$\times 10^7$ 2.1	7	0
1218	1.115	2.243	0.0253	13.20	61.2	428.0	366.8	0.42	67.8	2.10	—	—	88.7	80.9	2.6	10	0
1219	1.122	2.237	0.0307	13.19	63.8	516.9	453.1	0.38	78.9	2.35	—	—	72.9	83.4	3.2	15	0
1220	1.131	2.339	0.0402	13.77	66.3	616.9	550.6	0.45	103.2	2.62	—	—	58.2	82.4	4.1	15	?
1221	1.142	2.186	0.0492	12.83	68.3	719.1	650.8	0.55	136.2	2.91	—	—	44.4	76.0	4.6	15	?
1222	1.840	5.306	0.0379	20.33	85.9	315.8	229.8	0.49	40.1	1.64	—	—	140.0	78.8	2.3	15	1
1223	1.834	5.276	0.0443	20.56	90.8	349.2	258.4	0.45	45.1	1.71	—	—	119.1	75.9	2.6	15	1.2
1224	1.844	5.225	0.0540	20.49	95.2	403.2	308.0	0.47	56.7	1.84	—	—	96.8	74.3	3.1	15	1.7
1225	1.854	5.194	0.0620	20.44	98.3	454.9	356.6	0.41	63.3	1.96	—	—	83.8	76.2	3.5	15	2.2
1226	1.855	5.200	0.0696	20.62	101.3	500.8	399.4	0.42	69.8	2.07	—	—	74.7	75.7	4.0	15	2.8
1227	1.865	5.152	0.0758	20.46	104.2	551.5	447.2	0.49	87.1	2.19	—	—	68.0	77.8	4.4	15	3.5
1228	1.861	5.150	0.0823	20.65	106.8	598.9	492.0	0.50	97.9	2.30	—	—	62.6	79.4	4.9	15	4.2
1229	1.809	3.682	0.0370	15.23	108.2	432.3	324.1	0.38	53.7	1.85	—	—	99.5	80.7	2.3	15	1
1230	1.819	3.622	0.0421	14.96	109.4	473.1	363.8	0.36	57.5	1.95	—	—	86.0	78.9	2.6	15	1.2
1231	1.839	3.562	0.0522	14.81	110.2	545.5	435.3	0.51	80.8	2.14	—	—	68.2	76.0	3.0	15	1.7
1232	1.859	3.536	0.0591	14.34	110.9	605.4	494.5	0.59	98.5	2.29	—	—	59.8	76.5	3.4	15	2.3
1233	1.823	3.636	0.0676	15.07	111.8	661.3	549.6	0.59	112.4	2.43	—	—	53.8	77.2	4.0	15	3
1234	2.682	5.282	0.0549	15.06	116.2	469.4	353.2	0.52	116.2	1.91	—	—	96.2	85.5	2.5	15	3
1235	2.681	5.334	0.0623	15.26	117.6	509.7	392.1	0.49	70.2	2.00	—	—	85.6	85.0	2.8	15	3.7
1236	2.682	5.337	0.0709	15.31	118.9	563.6	444.7	0.45	79.2	2.13	—	—	75.3	85.6	3.2	15	4.6
1237	2.684	5.182	0.0759	14.93	120.6	601.3	480.7	0.57	93.8	2.22	—	—	68.3	84.6	3.4	15	5

航空宇宙技術研究所資料 299 号

昭和 51 年 4 月 発行

発行所 航空宇宙技術研究所

東京都調布市深大寺町 1880

電話武藏野三鷹(0422)47-5911(大代表) 〒182

印刷所 株式会社 東京プレス

東京都板橋区桜川 2-27-12

Printed in Japan

This document is provided by JAXA.